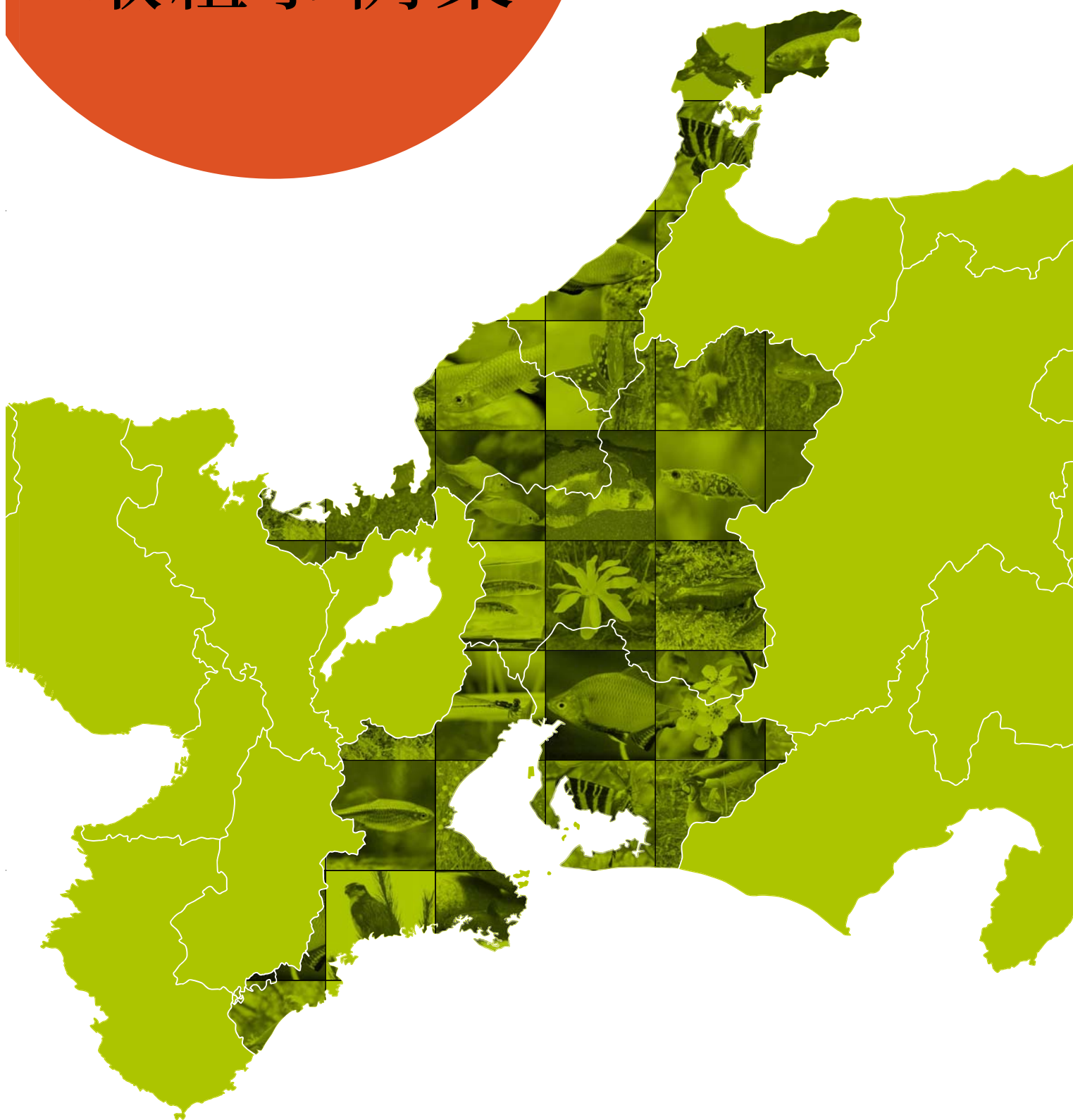


中部地域における

# 生物多様性保全のための 取組事例集





## はじめに

中部地方は、中部山岳地帯の高山帯から伊勢湾、富山湾等の海域まで、多様な環境に恵まれている一方、都市域では、世界的な自動車産業地帯を抱えた活発な経済活動が展開されています。このため、環境保全の取り組みを通じて経済を発展させ、地域社会の活力を高め、それがまた環境保全の取り組みを活発にさせるという好循環を実現させる可能性を有している地域です。

一方、中部地域では、都市圏の拡大による緑地の減少、里山の荒廃、放置された人工林の拡大、自然環境の連続性の分断、閉鎖性水域における水質の悪化（赤潮や青潮の発生）、干潟の減少などが生物多様性保全に係る課題となっており、課題解決のためには市民・地域による活動の広域連携と交流の促進が重要です。

また、現場で活動している人々が中心となった自主的な活動を尊重し、支援していくことも必要であると考えています。

そこで、本資料は、このような取組を推進していくための参考資料となることを目的に、中部地域で活動している方々にアンケート調査を行い、現場で活躍している方々の声を整理しました。

今後、本資料が中部地域の生物多様性保全のさらなる推進の一助となることを期待します。



# 1 中部地域における取組の姿

## 1.1 中部地域の環境

中部地域は多様な生態系を持ち、多くの貴重な生き物が生息する生物多様性の豊かな地域です。この生物多様性を支える生態系について重要地域の観点からご紹介します。

※ここでいう重要地域とは、積極的な保全が必要な種や、生物多様性を保全する上で重要な種の生息・生育地が集中する地域を示します。



### 森林生態系 Forest Ecosystem

中部地域は、黒潮の影響を受けた温暖な太平洋沿岸の常緑広葉樹林から、冷涼で地形も急峻な高山帯の植生に至るまで多様な森林環境を有し、それぞれの植生帯に固有の生物を育てています。

#### 重要地域



- ・白山
- ・白川郷周辺ブナ林
- ・北アルプス南部
- ・御岳山
- ・能郷白山・揖斐川上流域
- ・奥三河低山帯
- ・鈴鹿山脈
- ・台高山脈
- ・石巻山・嵩山石灰岩地帯



### 農地生態系 Agricultural Ecosystem

中部地域は、木曾三川など大河川により作られる広大な堆積平野の農業地帯や、能登半島や尾張の丘陵地帯のような、棚田やため池が点在し周囲に雑木林がある里山的な農業地帯など、多様な農地環境を有しています。

#### 重要地域



- ・能登半島丘陵地帯
- ・加賀丘陵地帯
- ・九頭竜川中下流域
- ・木曾三川中下流域
- ・北勢丘陵地帯
- ・中勢・南勢低地帯
- ・東海丘陵地帯
- ・木津川上流域



### 陸水生態系 Inland Water Ecosystem

中部地域は、上流域の急峻な溪流から中流部の河岸段丘や交互砂州、そして下流部のヨシ原や干潟など多様な環境を形成する河川や、海岸沿いの潟湖、また伊勢湾を取り囲むように分布する特異的な低湿地など、多様な陸水環境を有しています。

#### 重要地域



- ・木曾三川中下流域
- ・加賀湖沼群
- ・九頭竜川中下流域
- ・豊川中下流域
- ・東海丘陵地帯
- ・北勢丘陵地帯
- ・中勢・南勢低地帯
- ・木津川上流域



### 沿岸・海洋生態系 Marine and Coastal Ecosystem

中部地域は、藤前干潟などデルタ地帯の広大な干潟や、伊勢湾西部または加賀海岸など砂浜が延々と続く海岸線、また伊勢志摩や若狭湾のリアス式海岸など、多様な海岸環境を有し、固有の生物を育てています。

#### 重要地域



- ・伊勢湾北部デルタ地帯
- ・七ツ島・軸倉島
- ・能登半島西部海岸
- ・加賀海岸
- ・三方五湖
- ・遠州灘表浜海岸
- ・三河湾
- ・伊勢湾西部海岸
- ・熊野灘リアス式海岸



### 都市生態系 Urban Ecosystem



都市は、公園緑地など都市特有の環境に適応した様々な生き物が暮らす生態系を有しています。

一見、周囲から孤立しているように見えがちな都市生態系ですが、森林や河川など周辺の自然環境を連結させるネットワーク要素として重要な役割を担っています。また、身近な都市生態系は住民が自然と身近にふれあうことのできる貴重な場を提供し、自然に対する理解・関心を深化させる役割があります。

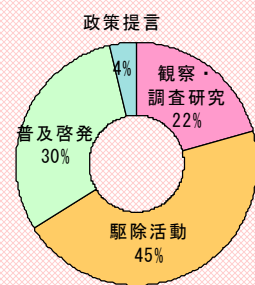
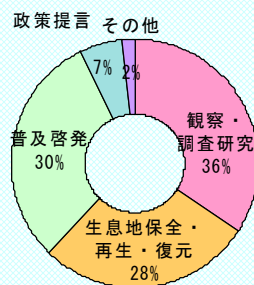
## 1.2 中部地域の取組の概要

多様な環境と生き物を有する中部地域では、様々な地域で生物多様性を保全するための取り組みが行われています。

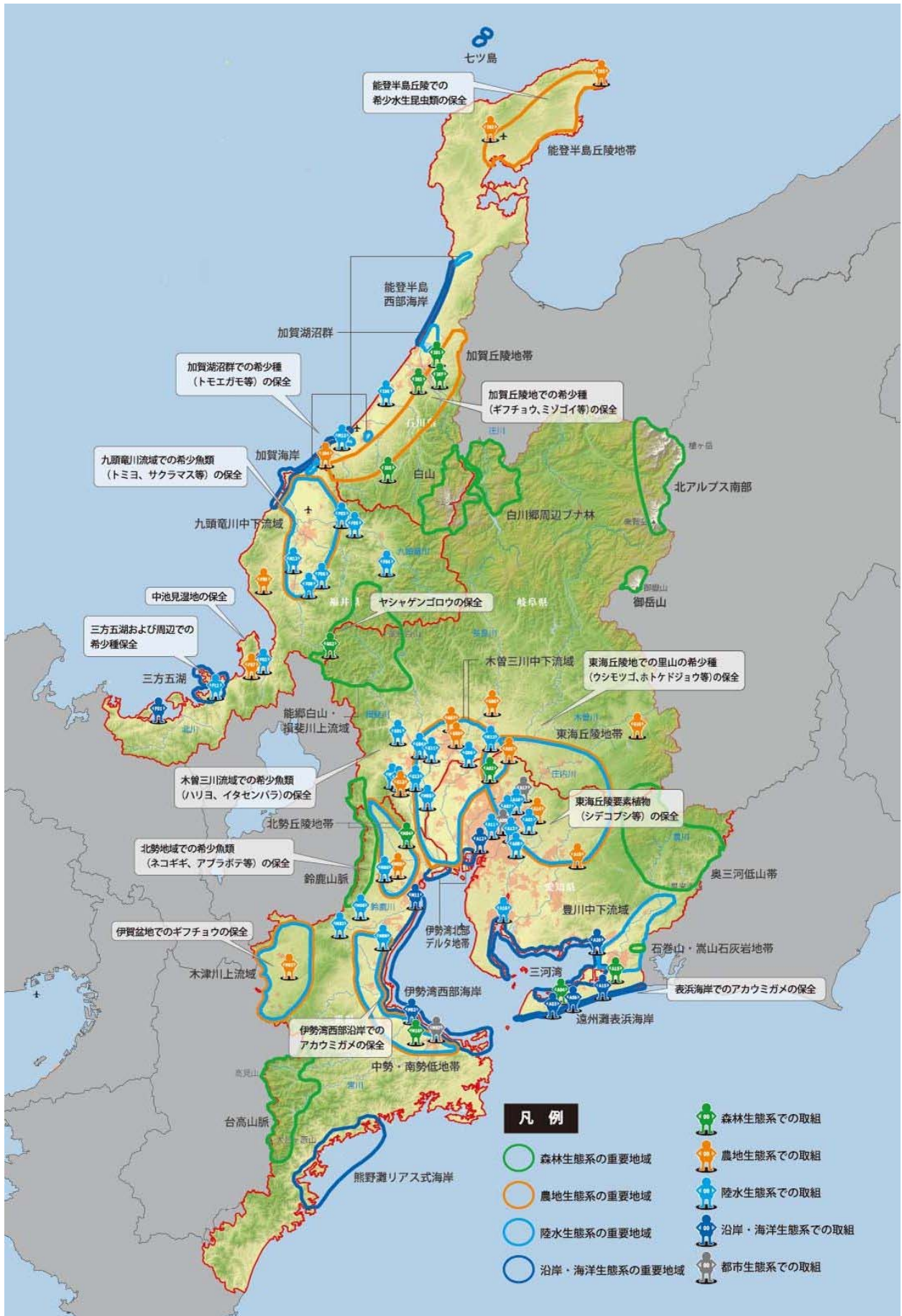
希少種の保全活動では、観察・調査研究が最も多く、次いで生息地保全・再生・復元、及び普及啓発活動が多く行われています。普及啓発活動は、観察会や清掃活動等の生息地保全といった実際の活動を通して行われているケースが多く見られます。

外来種対策では駆除活動が最も多く、次いで普及啓発、観察・調査研究が多く行われています。外来種対策でも、駆除活動を通して普及啓発活動に努めているケースが多く見られます。

	希少種保全活動	外来種対策
 <p>森林生態系</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤシャゲンゴロウの生息地保全</li> <li>・イヌワシの生息地保全</li> <li>・オオムラサキの保全 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来植物の駆除 など</li> </ul>
 <p>農地生態系</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウシモツゴの調査</li> <li>・シデコブシの生育地保全</li> <li>・カスミサランの生育地保全</li> <li>・ヒメコウホネの生育地保全 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来魚の駆除</li> <li>・外来植物の駆除</li> <li>・アライグマの駆除</li> <li>・アメリカザリガニの駆除 など</li> </ul>
 <p>都市生態系</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニホンリスの生息地保全</li> <li>・ハリヨの生息地保全</li> <li>・ヒメイトトンボの生息地保全 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オオキンケイギクの駆除</li> <li>・スイレンの駆除 など</li> </ul>
 <p>陸水生態系</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネコギギの保全</li> <li>・イタセンパラの保護増殖</li> <li>・ハリヨの生息地保全</li> <li>・東海丘陵要素植物の保全 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来魚の駆除</li> <li>・外来植物の駆除</li> <li>・アメリカザリガニの駆除</li> <li>・アカミミガメの駆除 など</li> </ul>
 <p>沿岸・海洋生態系</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカウミガメの産卵地保全</li> <li>・干潟の希少種の保全</li> <li>・アマモ場の整備 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オオキンケイギクの駆除</li> <li>・ユッカランの駆除 など</li> </ul>



# 希少種保全活動マップ



# 外来種対策活動マップ



### 1.3 取組の課題と対策事例

活動を行う中で、様々な問題・課題が生じます。

ここでは、組織運営等に係わる課題として以下の4点について意識調査を行い、それぞれの課題と課題解決に対する工夫を整理しました。

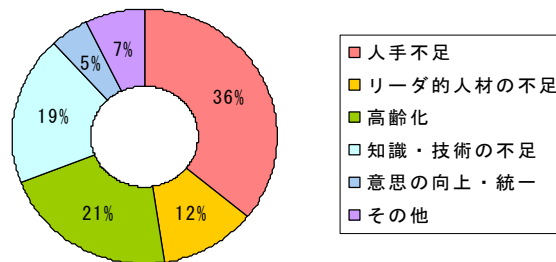
#### 《 4つの課題 》

1) 人材の確保・育成、2) 活動資金、3) 他団体・地域社会との連携、4) 情報の発信・共有

#### 1) 人材の確保・育成について

全体の約5割の団体が、人材の確保・育成に関して、課題があると回答しました。

内容について見ると、最も多いのは人手不足で、次いで高齢化が課題となっていました。また、知識や技術の不足も課題として多くの回答がありました。



人材の確保・育成についての課題

#### 人手不足・高齢化に対する工夫

##### ◆会員・参加者の募集

- ・ホームページ等で随時会員・参加者を募集
- ・活動をアピールし、活動が地域社会に浸透することで参加者の確保をはかる
- ・メーリングリストなどで情報を共有し、様々な活動に参加しやすい環境を作る
- ・活動に対して、エコポイント(地域通貨)を支払う

##### ◆他団体等との協力

- ・他団体と共催でイベントを実施
- ・地元住民や、市の関連団体、地元の市民団体に協力依頼

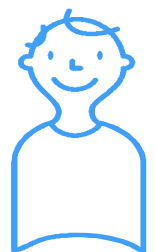
#### 知識・スキルの確保に対する工夫

##### ◆専門家・研究機関と連携

- ・大学や研究機関、行政、他団体と連携する
- ・行政等に技術指導を依頼

##### ◆研修等でスキルアップ

- ・研修会を定期的に開催



#### 意識の統一に対する工夫

##### ◆コミュニケーション

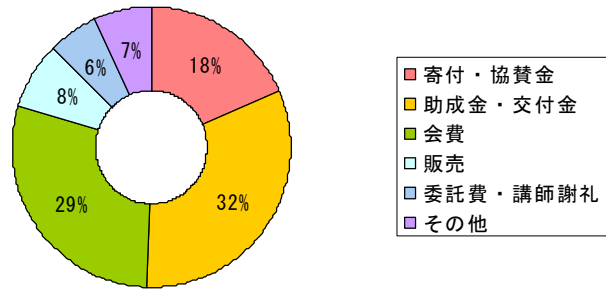
- ・定期的に理事会・運営委員会を開催
- ・施設スタッフに関しては毎朝打ち合わせと定期的なミーティングを行い、意識や考え方のズレを修正し、意識の統一をはかる
- ・日頃からコミュニケーションをはかり、仲間意識を強化



## 2) 活動資金について

活動資金源の種類を見ると、最も多いのは助成金・交付金で、次いで会費、寄付・協賛金でした。

課題については、約5割の団体が、活動資金に関して課題があると回答しました。これらの団体の中には、助成金や交付金の獲得に努めているところもありましたが、助成金は使用用途が限られている等、別の課題も見られました。また、自己負担で活動している団体も多く、活動資金の確保は大きな課題となっているようです。



活動資金源

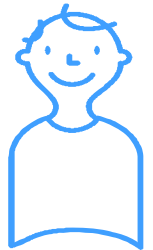
### 資金不足に対する工夫

#### ◆資金源を確保

- ・各種助成金の獲得
- ・行政からの支援、委託事業
- ・地元や地元自治体と連携することで、人手や資材の提供を受けている

#### ◆節約

- ・費用をかけず、出来る範囲で実施
- ・道具等は自作して費用を抑える

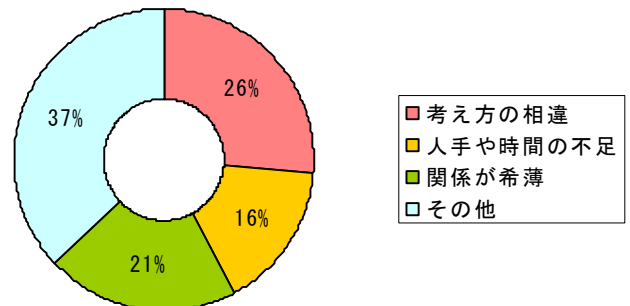


## 3) 他団体・地域社会との連携について

他団体や地域社会との連携をとっている団体は約9割あり、多くの団体が、連携を図りながら活動を進めていました。

課題があると答えた団体は、全体の約4割程度であり、その内容について見ると、団体間での考え方の相違や地域社会の関心が薄いため、連携がうまく図れていないという回答が比較的多く見られました。

特に、地域や行政との連携が図れないと、活動が滞ることもあり、相互理解の獲得が重要であるようです。

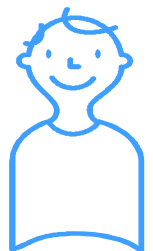


連携についての課題

### 連携・相互理解に対する工夫

#### ◆積極的な交流

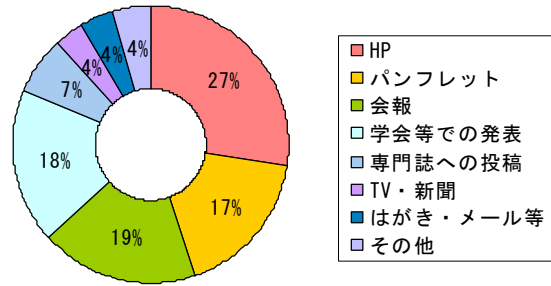
- ・情報を公開し、積極的に情報提供や指導を行うことで信頼関係を築く
- ・行政、市民と密に交流し、互いの意見や要望を把握する
- ・NPO法人の連絡協議会やネットワークの活用
- ・行政との意見交換会への参加



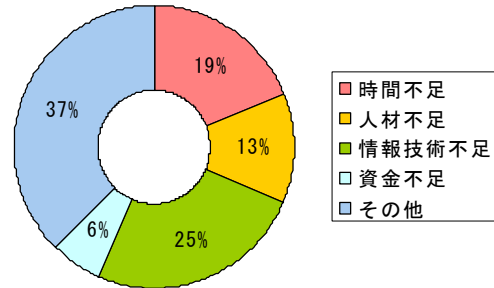
#### 4) 情報の発信・共有について

情報発信の方法については、ホームページや会報、パンフレット等で活動について紹介するケースが多いようです。その他では、テレビや新聞の広告を活用したり、メーリングリストを活用して素早く情報の共有が出来るように取り組んでいる団体も見られました。

課題があると答えた団体は約4割程度ありました。最も多かった課題は、情報技術の活用でした。特に年配の方々にはホームページの作成や活用等、パソコン等の操作が困難と感じているようです。また、時間や人手不足によって情報の更新が滞るといった意見も多く見られました。



情報発信の方法



情報発信・共有についての課題

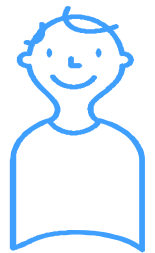
#### 情報発信に対する工夫

##### ◆ネットワークの活用

- ・ホームページやブログにて活動の紹介を行う
- ・メーリングリストで情報の共有化を図る

##### ◆定期的な情報共有

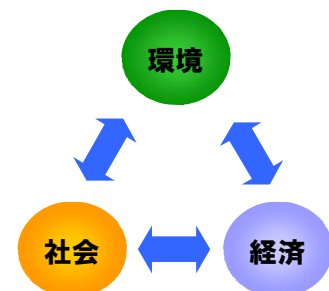
- ・定期的にミーティングを行い、意思疎通や技術交流を図る



Column

#### 環境と経済・社会の総合的な向上に向けて

環境的側面、社会的側面、経済的側面が複雑に関わっている現在社会において、恵み豊かで**持続可能な社会を構築**するためには、これらを複合的にとらえていく必要があります。つまり、環境配慮への取組が、新たな経済活動を創出し、発展させ、経済の活性化によって環境も良くなっていくような「**環境と経済の好循環**」の実現と、環境保全への取組を通じて、社会問題の解決基盤にもなる地域コミュニティを活性化させ、さらに環境保全への取組も積極的に行われるという「**環境と社会の好循環**」の実現が必要です。また、この環境と経済・社会の総合的な向上を実現するためには、行政や、企業、市民団体等**様々な主体が連携を図りながら取り組む**ことが求められます。



## 2 取組カルテ集

取組を行っている団体の主な活動内容について、取組における工夫点などと共に取組のカルテを作成しました。団体と、取組の一覧は以下のとおりです。

県	団体No.	取組団体名	主な希少種保全の取組			主な外来種対策の取組		
			生態系	取り組み内容	項	生態系	取り組み内容	項
愛知県	A01	愛知工業大学 都市環境学科 河川・環境研究室	陸水	ホトケドジョウの調査	2-82	陸水	カワヒバリガイの調査	2-171
	A02	愛知・雑木林連絡会	森林	シデコブシの生育地保全	2-7	-	-	-
	A03	あかばね塾	沿岸・海洋	アカウミガメの産卵地保全	2-103	-	-	-
	A04	渾美自然の会	森林	猛禽類の調査	2-16	-	-	-
	A05	NPO法人 犬山里山学研究所	農地	ウシモツゴの調査	2-43	農地	外来魚の駆除	2-148
	A06	NPO法人 表浜ネットワーク	沿岸・海洋	アカウミガメの産卵地保全	2-104	沿岸・海洋	オオキンケイギクの駆除	2-123
	A07	金城学院大学	陸水	八竜湿地の東海丘陵要素植物の保全	2-88	都市	オオキンケイギクの駆除	2-122
	A08	白玉草と八丁トンボを守る島田湿地の会	陸水	島田湿地の希少種保全	2-89	-	-	-
	A09	水瀬の森と八竜湿地を守る会	都市	八竜湿地の希少種保全	2-57	都市	スイレンの駆除	2-124
			-	-	-	都市	アライグマの駆除	2-133
	A10	豊田市自然観察の森	農地	サシバの生息地保全	2-33	農地	ウシガエル駆除	2-142
			-	-	-	農地	外来魚の駆除	2-149
	A11	名古屋水辺研究会	陸水	名古屋市の水生生物保全	2-94	陸水	外来魚介類の調査・駆除	2-150
	A12	名古屋港水族館	沿岸・海洋	アカウミガメの人工繁殖	2-105	-	-	-
	A13	名古屋市東山動植物園	陸水	メダカの保全	2-84	陸水	外来魚の啓発	2-151
	A14	日本ワシタカ研究センター	農地	猛禽類の保護	2-31	-	-	-
	A15	東三河自然環境ネット	森林	ナガボナツハゼの調査	2-11	-	-	-
			沿岸・海洋	アカウミガメの保全	2-106	-	-	-
	A16	碧南海浜水族館	陸水	ネコギギの保護増殖	2-78	陸水	外来魚の駆除	2-152
A17	守山リス研究会	都市	ニホンリスの生息地保全	2-53	-	-	-	
A18	矢田・庄内川をきれいにする会	陸水	スナヤツメの生息地保全	2-60	陸水	外来魚の駆除	2-153	
A19	山崎川グリーンマップ	-	-	-	陸水	アカミミガメの駆除	2-139	
A20	六条瀬と三河湾を守る会	沿岸・海洋	六条瀬の希少種の生息地保全	2-110	-	-	-	
岐阜県	G01	池田町ハリヨを守る会	陸水	ハリヨの生息地保全	2-68	-	-	-
	G02	NPO法人 揖斐自然環境レンジャー	森林	ヤシャゲンゴロウの生息地保全	2-18	-	-	-
	G03	大垣市環境市民会議	陸水	ハリヨの生息地保全	2-69	-	-	-
	G04	加賀野名水保存会	陸水	ハリヨの生息地保全	2-70	-	-	-
	G05	水曾三川フォーラム	-	-	-	陸水	外来魚の駆除	2-154
	G06	岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ	陸水	イタセンバラの保護増殖	2-63	農地	外来魚の駆除	2-155
			農地	ウシモツゴの調査・増殖	2-44	-	-	-
	G07	岐阜県立岐阜高等学校 自然科学部生物班	農地	カスミサンショウウオの生息地保全	-	-	-	-
	G08	下呂市環境部環境課	-	-	-	陸水	外来植物の駆除	2-126
	G09	達目洞自然の会	農地	ヒメコウホネの生育地保全	2-27	農地	外来植物の駆除	2-127
	G10	中津川シデコブシの会	農地	シデコブシの生育地保全	2-25	-	-	-
	G11	はりんごネットワーク	陸水	ハリヨの生息地保全	2-71	-	-	-
	G12	本戸5Hプロジェクト	農地	カワバタモロコシの生息地保全	-	農地	ジャンボタニシの駆除	2-172
G13	NPO法人 リバーキーパージャパン	陸水	希少種保全への提言	2-97	陸水	外来魚の駆除	2-156	
三重県	M01	伊賀ふるさとギフチョウネットワーク	農地	ギフチョウの生息地保全	2-46	-	-	-
	M02	志摩半島野生動物研究会	沿岸・海洋	アカウミガメの調査	2-107	沿岸・海洋	ユツカランの駆除	2-125
	M03	鈴鹿高等学校自然科学部	陸水	ネコギギの調査・保全	2-79	-	-	-
	M04	NPO法人 多度自然育成の会	森林	マメナシ（イヌナシ）の生息地保全	2-9	-	-	-
	M05	東海タナゴ研究会	農地	アブラボテの生息地保全	2-39	農地	外来魚の駆除	2-157
			陸水	イタセンバラの生息地保全	2-62	-	-	-
	M06	野登清友会	陸水	ネコギギの生息地保全	2-80	-	-	-
	M07	三重県伊勢建設事務所宮川下水道室	都市	ヒヌマイトトンボの生息地保全	2-55	-	-	-
	M08	三重県立四日市西高校自然研究会	陸水	湧水の希少魚類の保全	2-95	-	-	-
	M09	水辺づくりの会 鈴鹿川のうお座	陸水	ヤリタナゴの保全	2-86	陸水	外来魚の駆除	2-158
	M10	宮川用水土地改良区 管理課	森林	ミスニラの生息地保全	-	-	-	-
	M11	四日市ウミガメ保存会	沿岸・海洋	アカウミガメの生息地保全	2-108	-	-	-
M12	NPO法人 流域環境保全ネットワーク	陸水	淡水魚の保全	2-96	陸水	外来魚の駆除	2-160	
石川県	I01	石川県夕日寺健民自然園	森林	オオムラサキの保全	2-22	陸水	外来魚介類の駆除	2-161
	I02	石川の里山生物多様性保全再生事業推進協議会	森林	ギフチョウの保全	2-20	農地	アメリカザリガニの駆除	2-165
			農地	希少水生昆虫の保全	2-48	-	-	-
	I03	かが里山イヌワシの森再生協議会	森林	イヌワシの生息地保全	2-15	-	-	-
	I04	鴨池観察館友の会	農地	トモエガモの保全	2-29	陸水	外来魚の駆除	2-162
	I05	環白山保護利用管理協会	-	-	-	森林	外来植物の駆除	2-128
	I06	美川自然人クラブ	陸水	トミヨの保全	2-76	-	-	-
I07	森の都愛鳥会	森林	ミソゴイの調査	2-13	-	-	-	
福井県	F01	アマモマーメイドプロジェクト	沿岸・海洋	アマモ場の整備	2-101	-	-	-
	F02	NPO法人 ウェットランド中池見	陸水	中池見の希少種保全	2-90	陸水	外来植物の駆除	2-129
			-	-	-	陸水	アメリカザリガニの駆除	2-166
	F03	永平寺川にサケ・サクラマスの上を實現する会	陸水	サクラマスの生息地保全	2-65	-	-	-
	F04	大野イトヨの会	陸水	イトヨの生息地保全	2-73	-	-	-
	F05	サクラマス・レストレーション	陸水	サクラマスの生息地保全	2-66	-	-	-
	F06	治佐川とトミヨを守る会	陸水	トミヨの生息地保全	2-75	-	-	-
	F07	NPO法人 中池見ねっと	農地	中池見の希少種の保全	2-50	森林	外来植物の駆除	2-130
			-	-	-	陸水	アメリカザリガニの駆除	2-167
	F08	福井県両生爬虫類研究会	陸水	希少両生爬虫類の調査	2-98	-	-	-
	F09	水辺と生き物を守る農家と市民の会	農地	アベサンショウウオの生息地保全	2-35	農地	外来魚介類の駆除	2-163
F10	若狭町産業課	-	-	-	陸水	外来魚の駆除促進	2-164	
F11	若狭三方縄文博物館	陸水	三方五湖周辺の希少種保全	2-92	-	-	-	

## 2.1 希少種保全活動編

希少種保全活動は、生態系ごとに整理しており、保全対象種を紹介する「図鑑」と取組内容を紹介する「活動紹介」のページに、以下の内容でまとめられています。

### 《カルテの見方》

#### 1. 希少種 図鑑

■生態系区分※1 ごとに各種をタブで表示

- 希少種の名称・目・科・学名を記載
- 希少種のランクを記載
- 各県のレッドデータブックに掲載された分布情報を表示
- 生物分類※2 を表示
- 種の特徴を記載

■中部地域での分布

■問題・課題

- ・乱獲（べっ甲、卵や肉、稚ガメのペット用、トロール漁法、はえ縄漁法による混獲）による個体数の減少が懸念される。
- ・砂浜海岸の護岸工事による、産卵場の縮小・減少が懸念される。
- ・海洋汚染（水質、ビニール、プラスチック製品等の海洋投棄）による生息環境の悪化が懸念される。

■主な保全活動

- ・生息地保全
- ・生息域外保全
- ・地元住民を中心としたボランティア団体による、自然観察会などの啓発活動

■希少種現状についての問題と課題を記載

■主な保全活動について記載

#### 2. 希少種保全活動紹介

■取組内容を記載

■取組内容における、独自の工夫点を記載

■活動成果を記載

■団体 No・団体名称・取組タイトルを記載

■取組カテゴリー※3 を表記

■活動地域とマップを表示

■団体の所在県を記載

■工夫点

- ・海岸の清掃を巡るの要案を取り入れて、海岸清掃に際して、その一部を一般の参加者にも大勢手伝わってもらうため、ゲーム形式でゴミを拾ってもらい、ゴミの量で賞品を採与する大会を企画し、毎年100~200人程度の人が参加する海岸清掃を実施しています。
- ・希少種に関する情報の取り扱いについて、ウミガメの産卵場が特定されないように、目印の杭打ちは、黒から離してマーキングしています。
- ・他団体との連携、他団体とのイベント相互参加、共催を行うほか、名古屋港水族館のウミガメ関連の行事に参加しています。

■活動成果

■団体紹介

「元気のある地域づくり」を目標に、環境問題に関する活動、環境美化活動、講演会等を行っています。特に、表浜海岸(愛知県田原市)でのアカウミガメの上陸、産卵、孵化調査や海岸漂着物調査のほか、海岸の清掃や海岸証明の消灯など、海岸の環境整備を実施しています。

設立年：平成3年  
 職員数：専A：30名  
 URL：http://www.p-land.jp/akabane\_jyuku/  
 住所：〒441-3503 愛知県田原市若野町鳥居2  
 E-mail：yk\_in@p-land.jp  
 TEL：0531-46-2102 / FAX：0531-45-3772

VOICE 今後、さらに他団体との連携を深め、表浜地域全体でのアカウミガメの生息地保全のため、尽力していきたいと思っています！

※1 生態系区分



※2 生物分類



※3 取組カテゴリー

観察・調査研究

生息地保全

普及啓発

政策提言

種の保全

■他団体との交流や連携図を表示



## 中部地域の 森林生態系における希少種保全活動

中部地域は、黒潮の影響を受けた温暖な太平洋沿岸の常緑樹から、冷涼で地形も急峻な高山帯の植生に至るまで多様な森林環境を有し、それぞれの植生帯に固有の生物を育てています。

### ■ 森林生態系における保全対象

	保全対象	活動団体	地域	頁
植物	ミズニラ		—	2-4
		宮川用水土地改良区 管理課	三重県	2-5
	シデコブシ		—	2-6
		愛知・雑木林連絡会	愛知県	2-7
	マメナシ	NPO法人 多度自然育成の会	三重県	2-9
ナガボナツハゼ		—	2-10	
	東三河自然環境ネット	愛知県	2-11	
鳥類	ミゾゴイ		—	2-12
		森の都愛鳥会	石川県	2-13
	イヌワシ		—	2-14
		かが里山イヌワシの森再生協議会	石川県	2-15
	渥美自然の会	愛知県	2-16	
昆虫類	ヤシャゲンゴロウ		—	2-17
		NPO法人 揖斐自然環境レンジャー	岐阜県	2-18
	ギフチョウ		—	2-19
		石川の里山生物多様性保全再生事業推進協議会	石川県	2-20
	オオムラサキ		—	2-21
	石川県夕日寺健民自然園	石川県	2-22	



森林生態系における保全対象

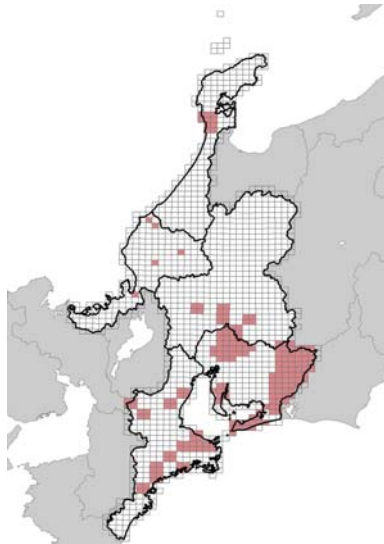
## ミズニラ

ミズニラ科  
学名 : *Isoetes japonica*

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	準絶滅危惧 (NT)
	愛知	準絶滅危惧 (NT)
	岐阜	絶滅危惧Ⅱ類
	三重	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	石川	絶滅危惧Ⅰ類
福井	県域絶滅危惧Ⅰ類	
その他条例	-	



### 中部地域での分布



### 種の特徴

沼、池、川の底やまれに湿地にも生じるやわらかい夏緑性水生シダ。塊茎は径 2~3cm で、浅く 3分する。葉は長さ 10~30cm、水深などの条件によって変異が大きい。

### 問題・課題

- ・ 水のきれいなため池や沼地など、環境変化や開発行為が起りやすい場所に生育し、丘陵地の開発、除草剤の使用等により、全国的に減少傾向が著しい。
- ・ その他、園芸採取や水質汚濁、自然遷移により、減少している。

### 主な保全活動

- ・ 生息地保全
- ・ 地元住民を中心としたボランティア団体による、自然観察会などの啓発活動



## 生息地保全

## 普及啓発

## 取組内容

◎国営事業による調整池工事の際にミズニラの生息が確認されたことから、工事範囲外の溜め池への**一時移植**を行い、調整池工事完了後に元の位置へ**再移植**を行いました。

## 《活動地域》

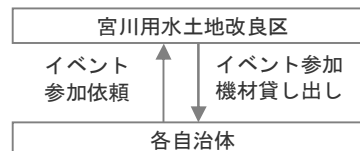
三重県多気郡明和町  
斎宮調整池



## 工夫点

## 他団体との連携

皆伐後の未造林地の増加や災害による崩壊地が発生したことから、緑化を目的とした「大台町苗木生産協議会」が発足しました。現在では、「水源地の保全」を目指して多樹種混合造林の、自然配植による森づくりの活動を、共に推進しています。



## 地域の方々や行政も巻き込んで

「水土里（みずどり）の森」の水源地保全活動の一環として、水源地を理解する体験学習会（植樹活動）を開催しています。苗木を育てて頂ける地元の小学校を募集し、ドングリから苗を育てる活動も行っています。

## 団体紹介

宮川沿岸地区は、水量豊富な宮川を控えていましたが、水面が耕作地より低いため取水することができず、ため池・井戸等の小規模施設での営農で水不足に悩まされていました。そこで、灌漑用水安定供給のため、宮川用水事業により灌漑施設が建設されました。我々は、その維持管理を行うため設立された団体です。

設立年：昭和32年  
 構成員：個人 17名、団体 1団体  
 URL：<http://miyagawa.cc/dokokara.html>  
 住所：〒516-0009 三重県伊勢市河崎1丁目11-8  
 E-mail：HPの問い合わせフォームより連絡可能  
 TEL：0596-28-6155 / FAX：0596-28-9083

## VOICE

農地・水・環境保全向上対策事業と連携し、地域住民に地域の環境について、さらなる関心を持ってもらいたいと思っています！



森林生態系



農地生態系



都市生態系



陸水生態系



沿岸・海洋生態系



植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



昆虫類

森林生態系における保全対象

## シデコブシ

モクレン科

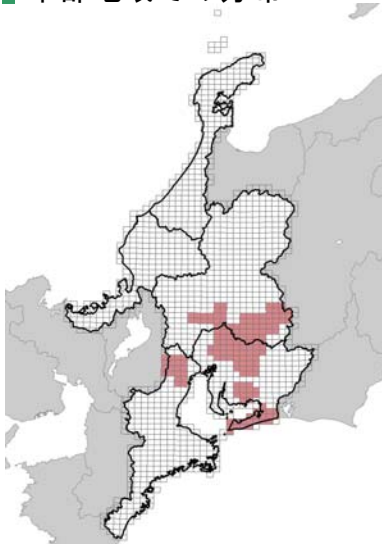
学名：*Magnolia tomentosa*

日本固有種

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	準絶滅危惧 (NT)
	愛知	絶滅危惧Ⅱ類
	岐阜	絶滅危惧Ⅱ類
	三重	絶滅危惧ⅠB類 (EN)
	石川	-
	福井	-
その他条例	岐阜県天然記念物「岩屋堂のシデコブシ群生地」	



### 中部地域での分布



### 種の特徴

低山に生える落葉小高木。高さ 5m 程度で、葉は互生、表面は無毛、裏面は淡緑色で若い時にはしばしば脈上に毛がある。花は 3~4 月、葉の展開する前に開く。

### 問題・課題

- ・ 三重県内での既知の生息地点数は 10 以下であり、生育環境が限られているが、大部分の生育地で生育条件が明らかに悪化しつつあり、個体数が大幅に減少している。
- ・ 大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧(園芸採取)にさらされている。
- ・ 生育環境となる湿地の減少や、二次林の利用停止に伴う被陰により、枯死している。
- ・ 同属タムシバとの、浸透性交雑、近縁個体群との交雑による遺伝子汚染が懸念される。

### 主な保全活動

- ・ 生息地保全
- ・ 地元住民を中心としたボランティア団体による、自然観察会などの啓発活動
- ・ 遺伝子攪乱防止の啓蒙活動





観察・調査研究

生息地保全

普及啓発

## 取組内容

- ◎観察、調査研究、及び生育地保全活動を行っています。
- ◎事務局を置いている「犬山里山学センター」や、環境フェアなどのイベントにおいて、活動成果のパネル展示、また講演会を実施し、普及啓発に努めています。

## 工夫点

## 他団体との連携

行政や企業への支援により、自生地保全の成果を得ています。また、本組織そのものが、愛知県下の16団体が集合した連絡会であり、連携を目的とした団体で、イベント開催に伴う講師派遣、資金等の支援、人的交流や情報伝達の充実を図る組織として機能しています。

それぞれのまちの団体間でのフィールド訪問を行い、共同調査や生育地保全活動を行うほか、「愛知雑木林会議」や、年一回の公開セミナーを開催して、活動成果を発表し合い、課題について討議する他、毎年3月に総会を開催し、次年度計画を作成しています。

## 希少種に関する情報の取り扱いについて

団体間で活動報告等を行い、情報を共有するなかで、秘密主義から公開・監視主義への転換を図っています。

## 活動成果

☆行政や企業の支援により自生地保全成果を得ていると実感しています。

## 《活動地域》

愛知県犬山市、瀬戸市、豊田市、名古屋市



## 団体紹介

愛知県下の16団体が集合した連絡会です。「愛知雑木林会議」を開催し、活動成果を発表し合い、活動の課題について討議しています。また、資金等の支援、人的交流や情報伝達の充実を図る組織として機能しています。

設立年 : 平成10年  
 構成員 : 団体 16団体  
 住所 : 〒484-0094 愛知県犬山市大字塔野地字大畔 364-2  
 犬山里山学センター  
 E-mail : satoyama@inuyama.net  
 TEL : 0568-65-2300 / FAX : 0568-65-2300

## VOICE

愛知県では、全国で早くから森づくり市民活動団体が形成され、その数も増えています。組織的な展開を行う基盤づくりを進め、愛知県としての一体化を目指しています！



植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



昆虫類

森林生態系における保全対象

## マメナシ（イヌナシ）

バラ科

学名：*Pyrus calleryana*

日本固有種

文化財保護法	天然記念物	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	絶滅危惧 I B 類 (EN)
	愛知	絶滅危惧 I A 類
	岐阜	情報不足
	三重	絶滅危惧 I B 類 (EN)
	石川	-
福井	-	
その他条例	三重県希少野生動植物保護条例指定 東阿倉川イヌナシ自生地、三重県指定文化財 多度のイヌナシ自生地	



写真提供：三重県自然環境室

## 中部地域での分布



## 種の特徴

日本の野生ナシの一種で、果実は小さく直径 1cm ほどしかない。葉の形状は通常、楕円形であるが、多度のイヌナシには先が三つ叉に分かれているものがあり、野生ナシの中でも最も原始的な種類と考えられている。

## 問題・課題

- ・ 里山の湧水のある場所に生育するが、耕地整備や開発により減少している。
- ・ 愛知では数十個体の現存が確認されたが、どの自生地でも半分以下に減少している。
- ・ 長野、岐阜、三重では現存が確認できず、絶滅した可能性がある。湿地の開発により、絶滅が懸念される。

## 主な保全活動

- ・ 生息地保全
- ・ 地元住民を中心としたボランティア団体による、自然観察会などの啓発活動

観察・調査研究

生息地保全

普及啓発

## 取組内容

- ◎国の天然記念物に指定された「多度のイヌナシ生息地」に下草や灌木が繁茂し、生育への悪影響が確認されたため、**一般市民に呼びかけての下草伐採活動**を年2回実施しています。
- ◎イヌナシ自生地保護活動委員会にて、「**自生地保護計画書**」の作成を行い、桑名市教育委員会より発行しました。

## 《活動地域》

三重県最北端桑名市  
多度町多度川中流  
多度峡の南みどりヶ池周辺



## 工夫点

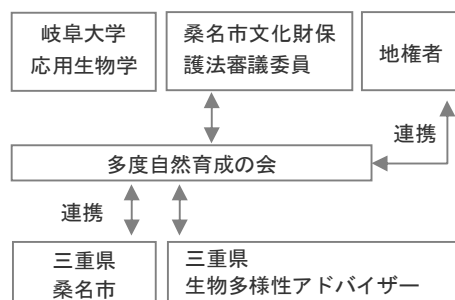
## 🗨️ 地域の方々や行政も巻き込んで

4月に花見の会を催し、市民の方々と意見交換を行っています。また、地権者の深い理解により、行政（県・市）、地域市民、会員が連携して、保全活動が実施できています。

行政の広報媒体を通じて、活動報告及び、協力ボランティアを呼びかけています。

## 🗨️ 希少種に関する情報の取り扱いについて

桑名市教育委員会より発行された「自生地保護計画書」の作成では、調査・分析の他、所在地の公開及び、生育場所が測量図にプロットされた詳しい生育状況を掲載し、広く一般に情報を公開しています。



## 活動成果

☆平成14年から下草刈りを始めたことで十分な日照が確保され、平成16年春から実生が確認できるようになりました。現在、数十本程度回復しています。

## 団体紹介

イヌナシ群落を保全しながら、環境にやさしい街づくりと環境保全に努力し、次世代を担う子孫に綺麗な自然を残すために、市民一人ひとりの意識改革が必要と考えています。年齢を問わず、誰でも気軽に参加でき、継続的な保全活動に努力することを目標としています。

## VOICE

広く一般に呼びかけて開催される花見会には、若い世代の参加もあり、大変嬉しいです。イヌナシ保全への関心の高まりを一層期待しています。

設立年：平成14年（平成14年 NPO 法人格取得）  
 構成員：個人 90名、団体 1団体  
 住所：〒511-0123 三重県桑名市多度町北猪飼宇野添 582-1  
 TEL：0594-48-5659 / FAX：0594-48-5659



植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



昆虫類

## 森林生態系における保全対象 ナガボナツハゼ

モクレン科  
学名: *Magnolia tomentosa*  
日本固有種

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	絶滅危惧 I A 類 (CR)
	愛知	絶滅危惧 I A 類
	岐阜	-
	三重	-
	石川	-
福井	-	
その他条例	愛知県希少野生動植物保護条例指定	



### 中部地域での分布



### 種の特徴

湖西丘陵南部から渥美半島にかけての固有種。湿地に生え、高さ1~2mになる落葉低木。葉の先は鋭くとがり、長さ3~7cm。5月、若枝の先に長さ5~10cmの総状花序を伸ばし、多数の下向きの花をつける。

### 問題・課題

- ・ 土地造成、道路工事が減少の主要因であり、また森林化の進行に伴う光条件の悪化により衰退している。
- ・ 現存するのは総計約1000個体と推定される。平均減少率は約30%、100年後の絶滅確率は約90%である。

### 主な保全活動

- ・ 生息地保全
- ・ 地元住民を中心としたボランティア団体による、自然観察会などの啓発活動

## 観察・調査研究

## 政策提言

## 普及啓発

## 取組内容

- ◎会員がナガボナツハゼの生息地の調査観察を定期的に行い、生息地情報を関係機関に伝え、保全提言を行っています。
- ◎公開シンポジウム、セミナー、ツアー、エコカレッジの開講など、各種イベントを実施し、普及啓発に努めています。

## 《活動地域》

愛知県豊橋市、田原市



## 工夫点

## 他団体との連携

東三河自然環境ネットは、愛知県が中心になってまとめた「東三河生物多様性保全事業」が環境省に採択されたのを受け、地元のNPOなど7団体で構成された地域生物多様性保全協議会として組織されています。人的交流や情報共有など、多面的な協力関係が築かれています。

## 地域の方々や行政も巻き込んで

公開シンポジウム「生物多様性の恵みと持続可能な地域づくり」や、「東三河生物多様性セミナー&オプションバスツアー」の開催、「穂の国エコカレッジ」の開講、自然探索など、環境保全と生物多様性への意識を高めるイベントやフィールドワークを主催し、地域市民に広く参加していただいています。

## 東三河自然環境ネット

## ●事業推進団体

NPO 穂の国森づくりの会  
 NPO 東三河自然観察会  
 愛知大学  
 豊橋うみがめクラブ

## ■事務局

愛知県  
 豊橋市  
 東三河懇話会

## 活動成果

☆平成22年に愛知県指定希少野生生物種に指定され、保護区が設定されました。

## 団体紹介

愛知県がまとめた東三河生物多様性保全事業が平成20年6月に環境省の生物多様性保全推進支援事業に採択されたのを受け、愛知県とNPO、大学等で構成する「東三河自然環境ネット」を立ち上げました。各団体において、アカウミガメ等の希少種の保護活動や保全提言や生物多様性への理解を深めるための啓発活動等を行っています。

設立年 : 平成20年  
 構成員 : 団体 7団体  
 URL : [http://www.e-mikawa-shizen.net/?page\\_id=2](http://www.e-mikawa-shizen.net/?page_id=2)  
 住所 : 〒440-0888 愛知県豊橋市駅前大通2-46  
 名豊ビル新館6階  
 E-mail : [info@konwakai.jp](mailto:info@konwakai.jp)  
 TEL : 0532-55-5141 / FAX : 0532-56-0981

## VOICE

東三河地域における地域の生物多様性の保全再生等に資することを目的に、COP10が開催される2010年(平成22年)までの3年間活動を行います!



植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



昆虫類

森林生態系における保全対象

## ミゾゴイ

コウノトリ目サギ科

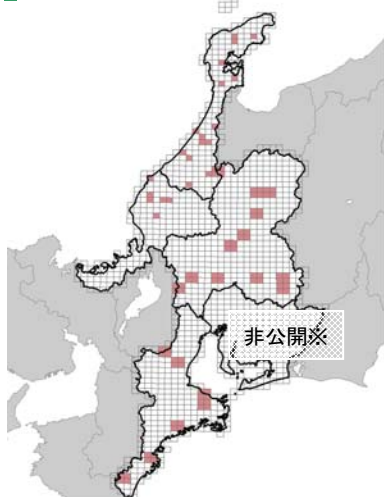
学名：*Gorsachius gorsagi*

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	絶滅危惧 I B 類 (EN)
	愛知	絶滅危惧 I B 類 (EN)
	岐阜	絶滅危惧 II 類 (II)
	三重	情報不足 (DD)
	石川	絶滅危惧 I 類
	福井	県域絶滅危惧 I 類
その他条例	-	



写真提供：森の都愛鳥会

## 中部地域での分布



※愛知県は非公開

## 種の特徴

総全長は約 49cm。雌雄同色。上面は茶褐色で、頭頂は暗赤褐色。下面は黄褐色で、縦斑がある。脚は黒緑色。繁殖地は日本のみ。薄暗い混交林の沢に営巣する。

## 問題・課題

- ・ 宅地開発などによって、低山帯の森林が減少・分断化していることも影響していると考えられるが、詳しい生態やその分布、個体数などはほとんど不明。
- ・ 関東以南の従来繁殖があった地域でも、近年はいなくなったところがある。分布が局地的であり、国際的にも保護に関する重要度が高い。
- ・ 丘陵地や山地の開発、道路建設などにより、餌となるサワガニ等の生物が減少している。

## 主な保全活動

- ・ 生態や分布、個体数などの調査
- ・ 生息地保全
- ・ 地元住民を中心としたボランティア団体による、自然観察会などの啓発活動

観察・調査研究

生息地保全

普及啓発

## 取組内容

- ◎平成12年より辰巳ダム建設地域で、ミゾゴイの生息状況、営巣位置、繁殖状況の確認などの調査を続けています。
- ◎平成15年に、ミゾゴイの餌場、ビオトープ整備作業を開始しました。
- ◎辰巳ダム貯水池の谷部・耕作地を活かしつつ、鳥獣の餌場ビオトープを保全・創出を目指すよう、行政へ、破壊されつつある自然環境に対するミティゲーション(代償措置)の取り組みについて、要望書を提出しました。
- ◎会報の作成を行い、活動広報を行っています。

## 《活動地域》

石川県金沢市上辰巳町  
ダム周辺

## 工夫点

## 地域の方々にむけたPR活動

毎月、野鳥のイラストを描き込んだバードウォッチングのお知らせハガキを作成し、HPなどで広く一般にご案内するとともに、例会には、どなたでも無料で参加いただいています。

## 希少種に関する情報の取り扱いについて

営巣中は、営巣場所を特定されないよう配慮しています。



森の都愛鳥会 活動の様子



お知らせハガキ・パンフレット



写真提供：森の都愛鳥会

## 団体紹介

「森の都愛鳥会」は金沢を中心に活動している自然保護団体です。毎月の例会バードウォッチングを開催しています。また、探鳥会と同時に調査活動も行っており、辰巳ダム建設予定地である相合谷では、ミゾゴイの営巣調査、ミサゴ・コアジサシの営巣調査の他、パイカモ碧の池の整備、フクロウの巣箱掛けなど、多岐にわたって活動をしています。

設立年：昭和45年  
 構成員：個人 48名  
 URL：<http://momia.exblog.jp/>  
 住所：〒920-0813 石川県金沢市御所町1-282  
 E-mail：[hon-ma@nifty.com](mailto:hon-ma@nifty.com)  
 TEL：076-252-1051 / FAX：076-252-1051

## VOICE

ミゾゴイの調査を行っている多くの主体と連携・情報交換を行って、ミゾゴイの保護の手立てを図りたいと思っています！



## 森林生態系における保全対象 イヌワシ

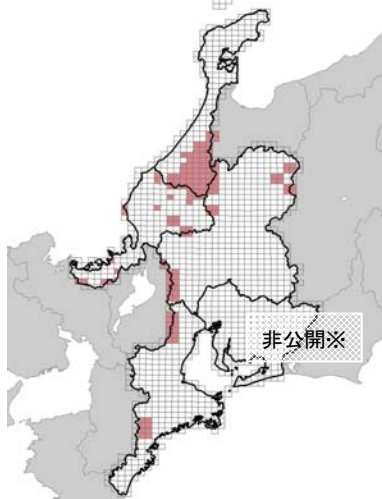
タカ目タカ科  
学名 : *Aquila chrysaetos*

文化財保護法		天然記念物
種の保存法		国内希少野生動植物種
レッドデータ カテゴリ	環境省	絶滅危惧 I B 類 (EN)
	愛知	-
	岐阜	絶滅危惧 I 類
	三重	絶滅危惧 I A 類 (CR)
	石川	絶滅危惧 I 類
福井	県域絶滅危惧 I 類	
その他条例		-



写真提供：八千代エンジニアリング

### 中部地域での分布



※愛知県は非公開

### 種の特徴

大型の猛禽類で、北海道から九州までの山地帯に分布。広大ななわばりを必要とし、急峻地の岩棚や大木に営巣する。ノウサギを主な食物とし、テン、ヤマドリなどの哺乳類や鳥類等を採餌する。

### 問題・課題

- ・ 全国での生息数は 500 羽以下と言われている。
- ・ 森林伐採、スキー場建設などレジャー開発や、ダム建設、林道工事など、人為的攪乱による生息環境が減少している。
- ・ 繁殖期初期、人間の接近や騒音に敏感で、人為的攪乱による営巣放棄が起こりやすい。
- ・ 農薬など化学物質の蓄積も生じている可能性が高い。

### 主な保全活動

- ・ 生息域外保全（保護増殖事業）
- ・ 地元住民を中心としたボランティアや自然保護管理員による密猟防止のパトロールや呼びかけ。



## 観察・調査研究

## 生息地保全

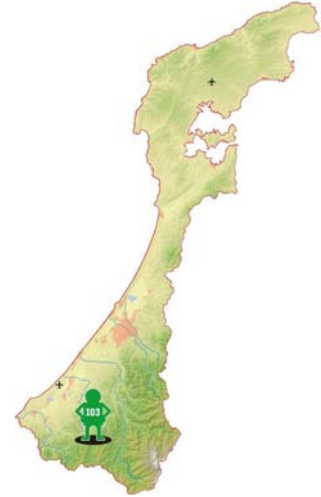
## 普及啓発

## 取組内容

- ◎イヌワシの生息状況調査を実施しています。
- ◎その他猛禽類の生息状況調査を実施しています。  
(クマタカ、ハヤブサ、オオタカ、ツミ、ハイタカ、ノスリ、トビ等)
- ◎イヌワシの餌となるノウサギの生息密度調査を実施しています。伐採の有無などにより複数の区画を設定し、糞量からノウサギの生息密度を把握しました。
- ◎周辺に生息する鳥類の解説、生物多様性保全の必要性を啓発する看板を設置しました。
- ◎イヌワシに関する普及啓発パンフレットを作成します。

## 《活動地域》

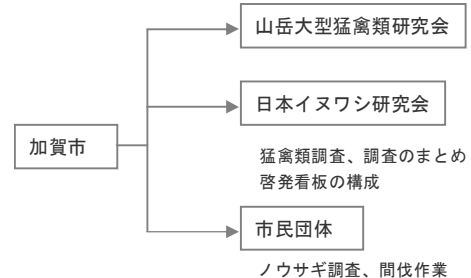
石川県南部－福井県東部



## 工夫点

## 他団体との連携

本協議会には、石川県などの行政機関をはじめ、森林行政機関や調査期間などが参画しています。イヌワシの餌となるノウサギの生息密度調査における区画の整理は、ボランティアの市民グループにより実施されました。



## 活動成果

☆平成 21 年度生物多様性保全推進支援事業（2 年間の調査）において、本地域にイヌワシは生息していないことが推測されましたが、森林生態系が健全ではないということが明らかになり、今後の「イヌワシの森づくり」への取り組みに生かしていきたいと思っています。

## 団体紹介

加賀市前市長（大幸 甚氏）が、かつて加賀市周辺に生息していたイヌワシを呼び戻そうと発案し、イヌワシが生息できるような森を再生することを目的として発足しました。

設立年：平成 20 年  
 構成員：協議会委員 16 名、オブザーバー 2 名  
 住所：〒922-8622 石川県加賀市大聖寺南町ニ 41  
 加賀市地域振興部環境課自然保護係  
 E-mail：shizenhogo@city.kaga.lg.jp  
 TEL：0761-72-7886

## VOICE

市長の思いが原動力！  
イヌワシを、加賀市に呼び戻したい！

# A04 渥美自然の会 猛禽類の調査

愛知県

観察・調査研究

普及啓発

## 取組内容

- ◎平成 17 年 10 月、渥美山塊の最高峰・越戸大山（おっとおやま 328m）山頂近くに設置された陸上自衛隊ヘリコプター離着陸訓練場でのヘリコプター訓練から猛禽類（オオタカ、サシバ、ハチクマ、ノスリ等）の繁殖・渡りを保護するために繁殖調査を実施しました。
- ◎講演会、シンポジウムも必要に応じて行っています。
- ◎自然調査や講演会記録集の発行と販売
- ◎「レッドデータ渥美」のとりまとめ
- ◎行政への要望書、意見書の提出

## 《活動地域》

田原市の山林一帯

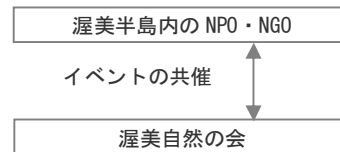


## 工夫点

### 他団体との連携

毎年秋には、渥美半島の自然にゆかりのある研究者や地元の方々を講師に招き、「伊良湖フォーラム」を開催し、情報交換や人材交流に努めてきました。

渥美自然の会主催の 20 周年イベントでは、「地域から市民の視点で考える 生物多様性保全」と題して、シンポジウムを開催し、愛知県・名古屋市で目指す 2010 年生物多様性国際会議 COP10 に向けて、調査分析の発表、取り組み事例の紹介を行いました。



## 活動成果

☆渥美山塊を南北に横断する農免農道が建設された際、調査研究や自然保護の提言を行うなかで、トンネルが 1.1km 延長され、自然度の高い山林部分の破損が免れました。

## 団体紹介

渥美半島の豊かな自然・貴重な生物を保護・保全することを目的に、渥美の自然をより深く探求し、自然保護について考え、努力していきたいと考えています。

設立年 : 昭和 63 年  
 構成員 : 個人 780 名  
 URL : <http://www.amitaj.or.jp/~irago-o/welcome.html>  
 住所 : 〒441-3501 愛知県田原市高松町一色 4  
 E-mail : [irago-o@amitaj.or.jp](mailto:irago-o@amitaj.or.jp)  
 TEL : 0531-45-2607 / FAX : 0531-45-2607

### VOICE

渥美の優れた自然を、地域の方々を含め、全国的に紹介することを目指しています！



植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



昆虫類

## 森林生態系における保全対象 ヤシャゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科  
学名: *Acilius kishii*  
日本固有種

文化財保護法	-	
種の保存法	国内希少野生動植物種	
レッドデータ カテゴリ	環境省	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
	愛知	-
	岐阜	-
	三重	-
	石川	-
福井	県域絶滅危惧 I 類	
その他条例	-	



写真提供: 奥野 宏

### 中部地域での分布



### 種の特徴

体長約 15mm 程度の中型のゲンゴロウ。春～初夏にかけてミジンコ類を餌として成長し、夏季に成虫となりそのまま越冬する。福井県南越前町の夜叉ヶ池だけに生息する。

### 問題・課題

- ・ ヤシャゲンゴロウは夜叉ヶ池にのみ生息するが、山岳道路の建設が進み、生息地近くまで人が容易に入り込めるようになったため、水質の汚濁等環境悪化による個体数の減少が懸念されている。
- ・ 希少性が高いため、マニアによる密猟が懸念されている。

### 主な保全活動

- ・ 生息域外保全（保護増殖事業）
- ・ 地元住民を中心としたボランティアや自然保護管理員による密猟防止のパトロールや登山者へのよびかけ。



森林生態系



農地生態系



都市生態系



陸水生生態系



沿岸・海洋生態系

観察・調査研究

生息地保全

普及啓発

取組内容

- ◎夜叉ヶ池及び上流水源地の自然環境の保全を図るため、登山道とそれに通ずる林道及び林道沿いの河川の清掃活動を行っています。  
また、登山者へのマナー向上の啓発を同時に行い、夜叉ヶ池周辺の保全の大切さを話しています。
- ◎「夜叉ヶ池ボランティアパトロール岐阜県運営協議会」に賛同し、協議会の一員として参加しています。
- ◎岐阜県側の揖斐川町と県西濃振興局揖斐事務所環境課及び当会、福井県側の南越前町と県安全環境部、両県の夜叉ヶ池パトロール員の会と各山岳会のメンバーで、平成15年に「夜叉ヶ池保全連絡調整会議」を設立し、平成16年から年に1回、夜叉ヶ池の現状と保全活動について意見を交わしています。また、両町を中心に木道の設置、登山道補修、入山者数確認やパトロール員による巡視及びパンフレットの配布等を行っています。

《活動地域》

岐阜県揖斐郡揖斐川町坂内



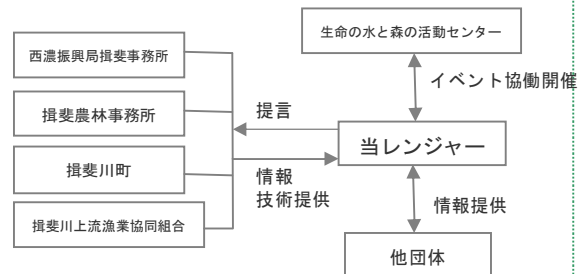
清掃活動の様子

写真提供：揖斐自然環境レンジャー

工夫点

他団体との連携

生命の水と森の活動センターと協働で「緑化推進事業」「自然環境保全、普及啓発活動」を実施しています。また、行政や他団体との情報提供や意見交換会等会議などを行っています。



地域のの方々や行政も巻き込んで

夜叉ヶ池活動の他にも、緑化推進活動や清掃活動をしており、新聞での一般募集や行政の参加を求め、会員以外の方にも多く参加して頂いています。また、環境学習の一環として、地元小中学生を巻き込んで、地元の山で採取した木の実を発芽させ苗木として育ててもらい、自分たちで育てた苗木を植樹するという活動を行っています。

団体紹介

人と自然が共存していくためには、地域の生態系のみを考慮した総合的な施策や、地域住民の方々ひとり一人の認識が必要です。私たちは、地域住民の方々に自然環境保全への理解と意識を持って頂くための普及啓発活動や鳥獣保護活動、緑化推進を積極的に推進し自然環境保全の実行者として活動しています。

設立年：平成11年（平成13年 NPO 法人格取得）  
 構成員：個人 105名、団体 17団体  
 URL：http://www.ibi-shizen.or.jp/  
 住所：〒501-0603 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪 157-1  
 E-mail：HP の問い合わせフォームより連絡可能  
 TEL：0585-23-1111(代) / FAX：0585-22-1829

VOICE

地域に根ざした自然環境の保全活動を行うことによって、この地域の自然の恵みを受ける多くの人々や野生動物が豊かに生活できる場づくりを進めていきたいです！



植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



昆虫類

森林生態系における保全対象

# ギフチョウ

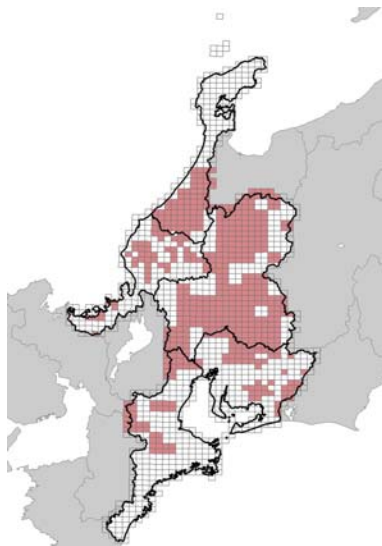
チョウ目アゲハチョウ科

学名：*Luehdorfia japonica*

日本固有種

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	愛知	準絶滅危惧 (NT)
	岐阜	準絶滅危惧
	三重	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	石川	準絶滅危惧
	福井	県域絶滅危惧Ⅱ類
その他条例	-	

## 中部地域での分布



## 種の特徴

クヌギ・コナラを中心とした雑木林に生息。スズカカンアオイ、ヒメカンアオイ、ナタデラカンアオイ、ウスバサイシンを食草とする。

## 問題・課題

- ・ 生息地は里山とその周辺の落葉広葉樹林であるため、宅地開発やゴルフ場の造成、道路の新設や拡幅工事、ダム建設など、開発の影響を受けやすい。
- ・ 植林による生息地の破壊や、農業形態の変化にともない里山が利用されなくなり、里山林の管理が放棄され、落葉広葉樹林から常緑広葉樹林への遷移が進み、本種の生息に適さない環境になった。
- ・ 減少しつつある産地に多数の採集者が集中していることも、本種の減少の原因となってきたと考えられる。

## 主な保全活動

- ・ 生息地保全及び、地元住民を中心としたボランティアや自然保護管理員による密猟防止のパトロールや登山者へのよびかけ。



森林生態系



農地生態系



都市生態系



陸水生態系



沿岸・海洋生態系

観察・調査研究

生息地保全

普及啓発

取組内容

◎ギフチョウやキンランの生息等が確認されている金沢市の丘陵地において、下記の事業を実施しました。

- 1) 里山における雑木林及び竹林の整備事業
  - ・ 雑木林・竹林の整備、散策道の整備等を実施しました。
  - ・ 拡大繁殖した竹林における竹の子除去・新竹の伐採、粉碎機を使用してのチップ化を実施しました。
  - ・ 雑木林の整備及び拡大繁殖した竹林における新竹の伐採等を実施しました。
- 2) 里山における生物多様性に関する調査及びモニタリング事業
  - ・ 生物多様性を向上させる竹林整備法を明らかにしていく上で、竹林調査実証サイト(皆伐・間伐・放置)の整備を行い、昆虫・植生調査を実施しました。
- 3) 生物多様性及び里山の保全再生に関する普及啓発事業
  - ・ 夕日寺健民自然園において、雑木林の整備及び拡大繁殖した親竹の伐採等を、一般参加により実施しました。

工夫点

 他の団体、地域や行政との連携

行政、大学、市民など15もの団体が連携して1つの事業をやる例は県内で他にはありません。能登の活動に人手が足りない時、金沢の活動団体が参加するなど、良好な関係とネットワークが出来ています。

《活動地域》

石川県金沢市四十万地区、角間地区、夕日寺地区



石川の里山生物多様性保全再生事業推進協議会連携団体

- ・ 石川県
- ・ 金沢市
- ・ 珠洲市
- ・ 輪島市
- ・ 金沢大学
- ・ 国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニット
- ・ 金沢森林組合
- ・ 環八会
- ・ いしかわり山保全活動リーダー会
- ・ 金沢市四十万校下赤十字奉仕団
- ・ 金沢ふるさと愛山会
- ・ 能登にトキとコウノトリを呼ぶ会
- ・ NPO 法人能登半島おらっちゃんの里山里海
- ・ 輪島市ビオトープ研究会
- ・ 石川県民退職者連合

団体紹介

石川県の里山は、全国的に見ても希少な野生動植物が生育する生物多様性の豊かな環境であるとともに、その面積は県土の約60%を占め、生物多様性の保全上非常に重要な存在です。本事業では、環境省の「地域生物多様性保全活動支援事業」を活用し、里山における希少種の保全再生を目指すモデルプロジェクトを実施しています。

設立年 : 平成20年  
 構成員 : 団体 15団体  
 住所 : 〒920-8580 石川県金沢市鞍月1-1  
 石川県環境部自然保護課  
 E-mail : e170500@pref.ishikawa.lg.jp  
 TEL : 076-225-1477 / FAX : 076-225-1479

VOICE

活動、調査成果の総括、評価、活動の継続、ネットワーク化などが今後の検討課題です！



植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



昆虫類

森林生態系における保全対象

# オオムラサキ

チョウ目タテハチョウ科

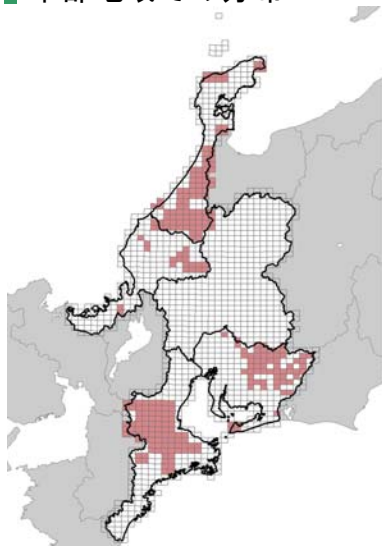
学名：*Sasakiacharonda charonda*

日本固有種

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	準絶滅危惧 (NT)
	愛知	準絶滅危惧 (NT)
	岐阜	-
	三重	準絶滅危惧 (NT)
	石川	準絶滅危惧
	福井	県域準絶滅危惧
その他条例	-	



## 中部地域での分布



## 種の特徴

日本最大のタテハチョウであり、低山地から高地にかけて生息。クヌギ・コナラを中心とした雑木林に生息。食樹はエノキ、越冬幼虫は落葉裏面にて越冬。

## 問題・課題

- ・ 市街化の促進、工業用地開発などによる生息地の消滅や、雑木林の管理放棄などによる混交林の繁茂が進み、生息環境が悪化している。
- ・ エノキが生育している河畔林も、山間地の荒廃に起因した増水のため、根際の越冬幼虫が流されたり埋もれてしまい個体数が減少している。

## 主な保全活動

- ・ 生息地保全
- ・ 地元住民を中心としたボランティアや自然保護管理員による密猟防止のパトロールや登山者へのよびかけ。
- ・ 遺伝子攪乱防止の啓蒙教育

生息地保全

普及啓発

取組内容

- ◎国蝶であり里山の代表的な名蝶の保護、増殖を計るべく、放置された棚田を改修し、トンボサンクチュアリーとして活用しているほか、オオムラサキの増殖を目的として、**エノキの植樹**と**樹液の出ている樹の保護**に努めています。
- ◎幼虫の採集に対して、**パトロール**及び、**啓発活動**を行っています。

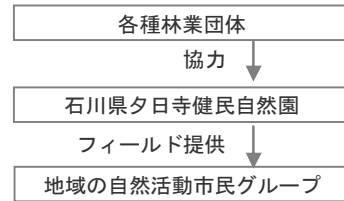
《活動地域》  
金沢市夕日寺



工夫点

他団体との連携

人材確保については、広くボランティアを募集するとともに、各種林業団体の協力を得ています。また、夕日寺自然園を市民グループに提供しながら、交流を深めています。



地域の方々や行政も巻き込んで

ガイドウォークや、自然体験、農業体験、自然の遊び場づくり、下草刈りや山菜採取などを行う里山保全ワーキングホリデー、夕日寺里山食堂など様々な体験プログラムを準備しています。こうしたイベントを通じて、地域の参画を促進し、オオムラサキの生息についても認識を高めています。

団体紹介

夕日寺健民自然園は、失われつつある里山の自然を保全するとともに、そこに生きる動植物に親しむ場として、金沢市夕日寺町で、昭和55年度から整備を進めてきました。面積は約77haで、これまでに自然観察歩道、ふれあいセンター、芝生広場、化石の広場、トンボアサンクチュアリーなどが整備されています。

設立年 : 昭和55年  
 構成員 : 個人 4名  
<http://www.pref.ishikawa.jp/sizen/satoyama%20new/yuhidera1.htm>  
 住所 : 〒920-0823 石川県金沢市夕日寺町ハ-116  
 E-mail : yuuhidera@bz03.plala.or.jp  
 TEL : 076-251-7554 / FAX : 076-251-7554

VOICE

夕日寺自然園は、都市周辺に位置し、身近な里山として県民に親しまれています。県の里山活動のモデル施設として、里山の利活用がテーマです。





## 中部地域の 農地生態系における希少種保全活動

中部地域は、木曾三川など大河川により作られる広大な堆積平野の農業地帯や、能登半島や尾張の丘陵地帯のような、棚田やため池が点在し周囲に雑木林がある里山的な農業地帯など、多様な農地環境を有しています。

### ■ 農地生態系における保全対象

保全対象		活動団体	地域	頁
植物	シデコブシ	中津川シデコブシの会	岐阜県	2-24
	ヒメコウホネ	達目洞自然の会	岐阜県	2-25
鳥類	トモエガモ	鴨池観察館友の会	石川県	2-26
	オオタカ	日本ワシタカ研究センター	愛知県	2-27
	サシバ	豊田市自然観察の森	愛知県	2-28
	アベサンショウウオ	水辺と生き物を守る農家と市民の会	岐阜県	2-29
両生類	カスミサンショウウオ	岐阜県立岐阜高等学校自然科学部生物班	福井県	2-30
	アブラボテ	東海タナゴ研究会	三重県	2-31
魚介類	カワバタモロコ	本戸5Hプロジェクト	岐阜県	2-32
	ウシモツゴ	NPO法人 犬山里山学研究所	愛知県	2-33
		岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ	岐阜県	2-34
	ギフチョウ	伊賀ふるさとギフチョウネットワーク	三重県	2-35
昆虫類	希少水生昆虫（ゲンゴロウ類）	石川の里山生物多様性保全再生事業推進協議会	石川県	2-36
	湿地性の希少種	NPO法人 中池見ねっと	福井県	2-37
地域				2-38
				2-39
				2-40
				2-41
				2-42
				2-43
				2-44
				2-45
				2-46
				2-47
				2-48
				2-49
				2-50



植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



昆虫類

農地生態系における保全対象

# シデコブシ

モクレン科

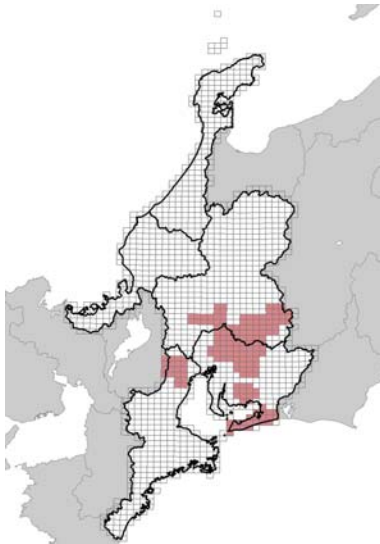
学名：*Magnolia tomentosa*

日本固有種

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	準絶滅危惧 (NT)
	愛知	絶滅危惧Ⅱ類
	岐阜	絶滅危惧Ⅱ類
	三重	絶滅危惧ⅠB類 (EN)
	石川	-
福井	-	
その他条例	岐阜県天然記念物「岩屋堂のシデコブシ群生地」	



## 中部地域での分布



## 種の特徴

低山に生える落葉小高木。高さ 5m 程度で、葉は互生、表面は無毛、裏面は淡緑色で若い時にはしばしば脈上に毛がある。花は 3~4 月、葉の展開する前に開く。

## 問題・課題

- ・ 三重県内での既知の生息地点数は 10 以下であり、生育環境が限られているが、大部分の生育地で生育条件が明らかに悪化しつつあり、個体数が大幅に減少している。
- ・ 大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧(園芸採取)にさらされている。
- ・ 生育環境となる湿地の減少や、二次林の利用停止に伴う被陰により、枯死している。
- ・ 同属タムシバとの、浸透性交雑、近縁個体群との交雑による遺伝子汚染が懸念される。

## 主な保全活動

- ・ 生息地保全
- ・ 地元住民を中心としたボランティア団体による、自然観察会などの啓発活動
- ・ 遺伝子攪乱防止の啓蒙活動



観察・調査研究

生息地保全

普及啓発

## 《活動地域》

中津川市笛木、落合、坂本、  
神坂

## 取組内容

- ◎10箇所以上ある自生地の下草刈り、生育観察等を実施しています。
- ◎岐阜県天然記念物「岩屋堂のシデコブシ群生地」で五月の開花時に、苗木の販売を行っています。
- ◎天然記念物の群生地等を中心に、シデコブシの説明案内（看板、のぼり旗制作等）による普及活動を行っています。
- ◎市の環境フェスタ（毎年10月）に参加し、普及活動を実施しています。



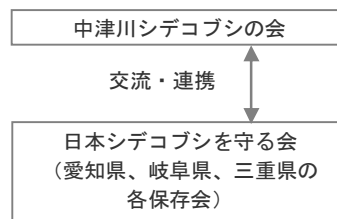
## 工夫点

## 他団体との連携

日本シデコブシを守る会を通じて、愛知・岐阜・三重各県保存会と交流しています。

## シデコブシの苗木販売

生息数を減らしている植物であるため、5月の開花時に、岐阜県天然記念物「岩屋堂のシデコブシ群生地」にて、育てた苗木を一般に販売しています。



## 活動成果

☆保全活動により樹木生育も順調で、苗木販売の実施もあり、現状維持できていると感じています。

## 団体紹介

東濃地域を中心に自生している希少種シデコブシの保護を目的として設立されました。十箇所以上ある自生地の保護・管理（下草刈り等）、シデコブシ街道（広域農道）の保護・整備、県指定天然記念物である岩屋堂のシデコブシ自生地の保護を行っています。

設立年：平成元年  
 構成員：個人 191名  
 住所：〒508-0101 岐阜県中津川市笛木 4827-614  
 TEL：0573-67-2055

## VOICE

シデコブシは環境良否のパロメーターとも言われ、土地開発等の影響を受け減少していますが、保存と苗木の販売効果で生息数は現状維持できていると思います！



農地生態系における保全対象

# ヒメコウホネ

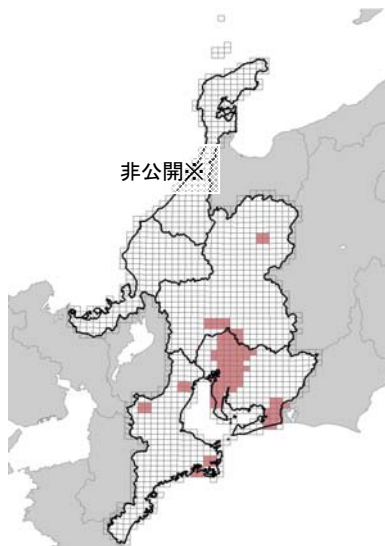
スイレン科  
学名 : *Nuphar subintegerrimum*  
日本固有種

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	愛知	絶滅危惧ⅠB類
	岐阜	絶滅危惧Ⅰ類
	三重	絶滅危惧ⅠB類 (EN)
	石川	絶滅危惧Ⅰ類
福井	-	
その他条例	-	



写真提供：達目洞自然の会

## 中部地域での分布



※石川県は、分布非公開

## 種の特徴

全国的に減少傾向の著しい水生植物で、典型的なものは東海地方以外ではほとんど見られなくなっている。愛知県においても、減少傾向が著しい。

## 問題・課題

- ・ 生息地は休耕地の池、溝、湿地帯等であるため、干拓等により消失することが多い。
- ・ 水質汚濁や河川、池沼の開発の他、園芸採取によっても、減少している。
- ・ 全国でも、生育数は総計約 8000 個体と推定される。平均減少率は約 30%、100 年後の絶滅確率は約 50%である。

## 主な保全活動

- ・ 生息地保全
- ・ 地元住民を中心としたボランティア団体による、自然観察会などの啓発活動

## 観察・調査研究

## 生息地保全

## 普及啓発

## 取組内容

- ◎観察、湿地環境の再生・復元、川床の泥上げ、競合する水生植物の除去等を、毎月の活動のなかで実施しています。
- ◎市民、団体と県・市職員、建設関係業者、地元農家合同による、田に水を引くための川の清掃、周辺雑草の除草、ヒメコウホネの移植などを、年3回実施しています。
- ◎市民・児童を対象に観察会や学習イベント（どろんこ遊び）を開催し、自然環境保全の教育啓発にも努めています。
- ◎パンフレットやポスター、看板の制作を行い、市民への啓発活動を行っています。
- ◎ヒメコウホネの生息地沿いに木道を整備しました。
- ◎特別保護区に指定されたヒメコウホネ群落への土砂の流入を防ぐために、川の護岸改修を実施します。

## 《活動地域》

岐阜市達目洞



保全地の様子

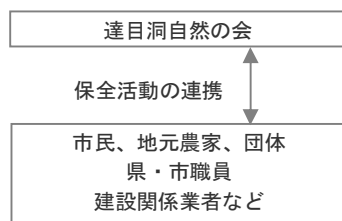
## 工夫点

## 遊びの力を学びのきっかけに

観察会と併せて、どろんこ遊びのイベントを実施しています。水を張った田んぼでの綱引きや、かけっこなどを通じて、子ども達が達目洞の自然を体で感じています。

## 他団体との連携

平成11年より市民、団体と県・市職員、建設関係業者、地元農家が、共に荒れた里山の保全活動を実施しています。



達目洞自然の会パンフレット

## 活動成果

- ☆県道建設計画へ計画変更意見書を提出し、盛土構造が高架へ変更され湿地が残されました。
- ☆「平成14年 岐阜市環境活動顕彰」「平成16年 岐阜市都市環境賞 市民活動部門」、「平成17年 自然環境功労者大臣表彰 いきものの環境づくり・みどり部門」、「平成19年 岐阜市市民参画賞」、「平成21年 岐阜市環境活動顕」などを受賞しました。

## 団体紹介

県自然環境連合会が達目洞の環境調査を実施、故成瀬亮司氏によりヒメコウホネの生育が確認されたことをきっかけに、保全活動を開始しました。『ヒメコウホネ』の保護を中心に、外来種を駆除、草刈り、自然観察会、環境教育のお手伝いなどの活動を通じて、達目洞の湿地環境を保全しています。

## VOICE

地域や企業の方々、幼稚園の子ども達も親子で参加しています。今は休耕田をお借りして、お米も作っています。市民の自然とのふれあい、憩いの場づくりを目指しています！

設立年：平成14年（平成4年から活動開始）  
（平成16年 岐阜市条例で定める「自然環境保全活動団体」に指定）  
URL：http://www.gifu-nature.net/html/org/datsuboku.html  
住所：〒502-0053 岐阜市長良宮路町3-20-103  
E-mail：kano-k@triton.ocn.ne.jp  
TEL：058-294-7671



農地生態系における保全対象

# トモエガモ

カモ目カモ科

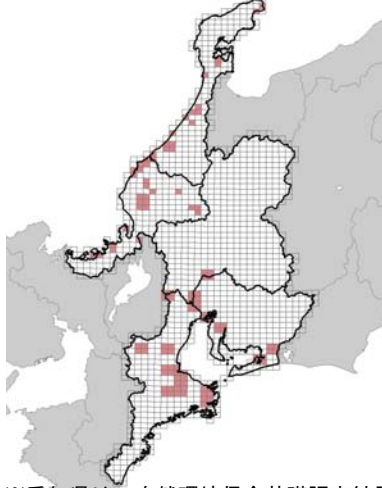
学名: *Anas formosa*

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	愛知	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	岐阜	-
	三重	絶滅危惧ⅠB類 (EN) [越冬]
	石川	絶滅危惧Ⅱ類
福井	県域絶滅危惧Ⅱ類	
その他条例	-	



写真提供：日本野鳥の会

## 中部地域での分布



※愛知県は、自然環境保全基礎調査結果を表示しています。

## 種の特徴

全長 40cm、コガモほどの大きさのカモ。東アジア特産種で、冬期に河川や内陸の池沼に生息するが、渡来数が急激に減少している。イネ科、タデ科などの植物の実を食べる。

## 問題・課題

- ・ 関東地方でも多数が渡来していたが、1983年頃を境に減少している。
- ・ 水辺環境周辺の身を隠しやすい樹林の減少や海浜部の埋立て、河川敷の樹林の伐採などにより、生息環境の悪化している。
- ・ 狩猟鳥であるコガモと大きさがよく似ており、コガモ狩猟中の誤射も懸念される。

## 主な保全活動

- ・ 生息地保全（カモ類が集まる場所の多くは保護区に指定されている。）
- ・ 地元住民を中心としたボランティア団体による、自然観察会などの啓発活動



## 観察・調査研究

## 生息地保全

## 普及啓発

## 取組内容

- ◎鴨池に飛来する野鳥の観察を行っています。
- ◎鴨池に飛来するカモの餌場づくりのために、地元の生産組合の協力を得て「冬水たんぼ」を実施。獲れたお米を「加賀の鴨米ともえ」と銘々し、販売しています。
- ◎生息地保全及び、観察会実施のため、春から夏にかけて畦の補修や草刈り、木の剪定を実施しています。
- ◎子どもたちが遊びながら野鳥や自然に親しめるよう、様々な展示（観察館前の水田に屋外展示物）、工作の指導を行っています。
- ◎来館者への自然案内、活動ビデオを配布するなど普及啓発に努めています。

## 《活動地域》

加賀市片野町片野鴨池  
下福田貯水池

## 工夫点

## 鴨の餌場づくりでブランド米

鴨池に飛来するカモの餌場づくりのための「冬水たんぼ」で獲れたお米を「加賀の鴨米ともえ」と銘々し、地元の生産組合の協力を得て、各所で生育・販売しています。片野鴨池に飛来する野生のカモの糞を肥料とする美味しいお米です。

また、畝づくり、昔ながらの田植え、脱穀、餅つき、藁細工など、一年を通してイベントを企画し、子ども会行事を活用しながら、鴨池の自然に親しむきっかけづくりを行っています。

## 希少種に関する情報の取り扱いについて

鴨池に飛来する絶滅危惧種について、周辺に生息するものについては、詳細な場所が特定できないように注意しています。

## 他団体との連携

平成 17 年に市の助成を受けた「片野鴨池周辺地域保全連絡協議会」が設置され、鴨池に関わる団体が集まって話し合う場が出来、環境保全についての活動が展開されています。



鴨池の様子

加賀の鴨米ともえ

写真提供：鴨池観察館友の会

## 活動成果

☆平成 3 年「石川アメニティ奨励賞」、平成 21 年アジア太平洋環境開発フォーラムにて「橋本龍太郎 APFED 賞」を受賞しました。

## 団体紹介

日本有数のガン・カモ類の越冬地で、ラムサール条約登録湿地でもある鴨池の自然を将来に残すために、環境保全活動や普及啓発活動を行っています。例えば、冬期に田んぼに水を張って鳥類の冬期間の餌場を作ることや、外来魚の防除を行うほか、自然観察会や、稲作体験などのイベントを行っています。

設立年：昭和 63 年  
 構成員：個人 50 名  
 URL：http://www.wbsj.org./sanctuary/kamoike/  
 住所：〒922-0564 石川県加賀市片野町子 2-1 鴨池観察館  
 E-mail：kamoike@wbsj.org  
 TEL：0761-72-2200 / FAX：0761-72-2935

## VOICE

鴨池に飛来するカモの餌場づくりのための「冬水たんぼ」で獲れたお米を「加賀の鴨米ともえ」と銘々し、育てています。片野鴨池に飛来する野生のカモの糞を肥料とする美味しいお米です！



植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



昆虫類

農地生態系における保全対象

# オオタカ

猛禽類例 1

タカ目タカ科

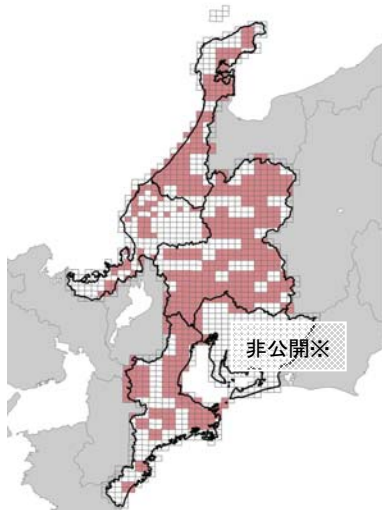
学名: *Accipiter gentilis fujiyamae*

文化財保護法	-	
種の保存法	国内希少野生動物種	
レッドデータ カテゴリー	環境省	準絶滅危惧 (NT)
	愛知	準絶滅危惧 (NT)
	岐阜	準絶滅危惧 (準)
	三重	絶滅危惧 II 類 (II)
	石川	絶滅危惧 II 類
福井	県域絶滅危惧 I 類	
その他条例	-	



写真提供：八千代エンジニアリング

## 中部地域での分布



※愛知県は、鳥の分布非公開

## 種の特徴

カラス大の猛禽類で、平野部から山地帯の緩やかな地形の森林内や森林に隣接した草地や農地で、主にハト類など鳥類を採餌する。湖沼、河川などにも現れる。

## 問題・課題

- ・ 開発による生息地や、営巣木となる大木や餌である鳥類等が減少している。
- ・ 農薬、化学物質や重金属の体内蓄積が懸念される。
- ・ 剥製とするための違法捕獲が懸念される。
- ・ 写真撮影目的の営巣地侵入による、繁殖失敗が懸念される。

## 主な保全活動

- ・ 生息地保全
- ・ 地元住民を中心としたボランティアや自然保護管理員による密猟防止のパトロールや登山者へのよびかけ





植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



昆虫類

農地生態系における保全対象

# サシバ

猛禽類例 2

タカ目タカ科

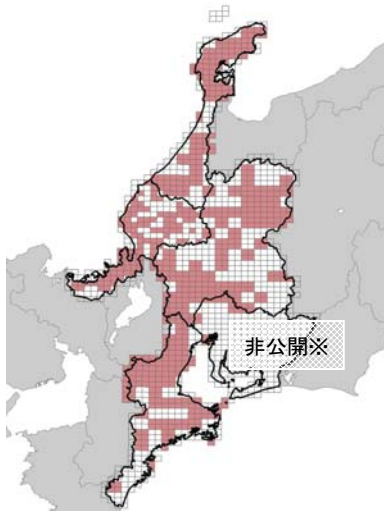
学名：*Butastur indicus*

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	愛知	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	岐阜	準絶滅危惧 (準)
	三重	絶滅危惧ⅠB類 (EN)
	石川	絶滅危惧Ⅱ類
	福井	県域準絶滅危惧
その他条例	-	



写真提供：八千代エンジニアリング

## 中部地域での分布



※愛知県は、鳥の分布非公開

## 種の特徴

全長は、雄はおよそ 47cm で雌はおよそ 51cm。翼開長 105cm~115cm。主にヘビ、トカゲ、カエル、昆虫類を食べる。渡り鳥であり、日本では 4 月ごろ夏鳥として本州、四国、九州に渡来し、標高 1000m 以下の山地の林で繁殖する。秋には沖縄・南西諸島を經由して東南アジアやニューギニアで冬を越す。

## 問題・課題

- ・ 水田の耕作放棄や転作により餌となる両生類や爬虫類が減少している。
- ・ 高速道路建設や大規模開発等により、生息環境が減少している。

## 主な保全活動

- ・ 生息地保全
- ・ 地元住民を中心としたボランティアや自然保護管理員による密猟防止のパトロールや登山者へのよびかけ

観察・調査研究

生息地保全

普及啓発

取組内容

- ◎ 餌資源調査、行動圏調査などの、サシバ生態調査を行い、サシバの生息適地モデルを名城大学などと共同研究しています。
- ◎ 「サシバのすめる森作り」をテーマに、保全計画を立案しています。
- ◎ 主な餌であるカエル類を増やすため、休耕田に水を張るなどの取り組みや、ニホンアカガエルの卵塊数をモニタリングしています。
- ◎ 活動の結果を展示物とし、普及啓発を行っています。



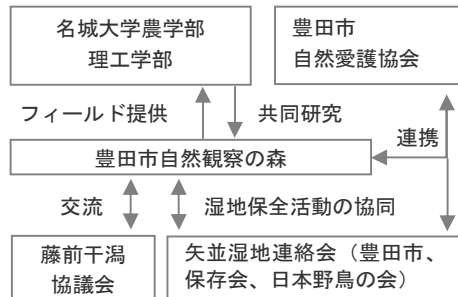
工夫点

希少種に関する情報の取り扱いについて

確認月及び、エリアマップ上に位置を落として観察記録をHPで公開していますが、詳細な生息場所は特定できないように配慮しています。自然観察会などでは、解説を控えることもあります。

他団体との連携

サシバの生息適地モデルづくりのため、名城大学と、サシバ生態調査を実施するなど、共同研究を行っています。  
また、矢並湿地連絡会をつくり、豊田市、豊田市自然愛護協会、日本野鳥の会、矢並湿地保存会との協同保全活動を実施しています。  
藤前干潟協議会との交流を行っています。



団体紹介

市民が気軽に自然に親しみながら自然のしくみや機能を学び、自然保護について考える場とする目的で、環境省の指導と補助により平成2年に開設しました。現在は「サシバのすめる森作り」をテーマに、里山環境の保全や湿地植物群、トンボ等の保全、外来種の駆除活動を実施するとともに、自然環境学習の拠点として普及啓発活動を実施しています。

設立年 : 平成2年  
 構成員 : 個人9名 3団体(約100名)  
 住所 : 〒471-0014 愛知県豊田市東山町4丁目1206-1  
 URL : <http://www.toyota-kansatsu.com/>  
 E-mail : [toyota@wbsj.org](mailto:toyota@wbsj.org)  
 TEL : 0565-88-1310 / FAX 0565-88-1311

VOICE

「サシバのすめる森作り」をテーマに、主な餌であるカエル類を増やすため、休耕田に水を張るなどの整備や、生態調査を実施しています！

## 観察・調査研究

## 生息地保全

## 普及啓発

## 取組内容

- ◎保護された傷病猛禽類を行政側の依頼に応じて收容し、野生復帰を前提とした治療や保護飼養を行ない、回復した個体は放鳥しています。後遺症により野生復帰できなかった個体は日本ワシタカ研究センターで終生飼育しています。
- ◎行政側の野生生物保護担当者に対して講習会を開催し、取扱い方法の実習も実施しました。
- ◎生息環境の保全・調査評価を行っています。
- ◎巣の補修や設置を実施しています。
- ◎鷹狩り技術の保存、猛禽類調査データ、映像、報告書、猛禽類に関する国内外の書籍、鷹狩りに関する古文書等の保存を行っています。
- ◎遺伝子などの基礎研究、人工増殖を実施しています。



写真提供：日本ワシタカ研究センター

## 工夫点

## 希少種に関する情報の取り扱いについて

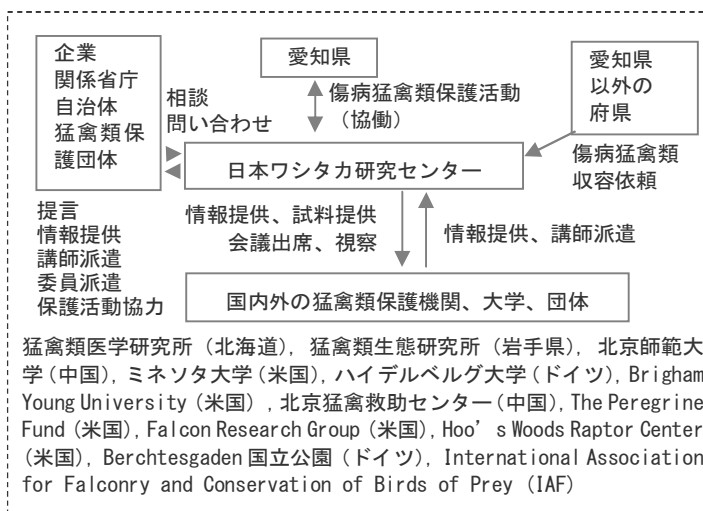
生息地や開発予定地に関する情報は外部に漏れないよう配慮しています。傷病猛禽類の保護活動についても、スムーズな野生復帰のために、一般公開は控えています。

## 他団体との連携

愛知県内で発見される傷病猛禽類の救護に関して、公益信託愛・地球博開催地域社会貢献活動資金（愛知モリコエロ基金）の助成を受け、平成20年から愛知県と協働で取組んでいます。

傷病猛禽類の救護は、過去6年間に82個体を行政より依頼を受けて收容し、15個体を治療後に放鳥しました。

企業や国内外の研究機関との連携、行政との協働活動、各種文献や調査資料の収集と活用を行っています。



## 団体紹介

ワシタカ類は開発による生息環境の変化や蓄積された化学物質による繁殖率の低下など人間の行為が原因で世界的に生息数が減少しています。日本ワシタカ研究センターではワシタカ類の基礎研究の他、人間生活とワシタカ類との競合問題に直接関係する分野での活動を行っています。

## VOICE

一過性の開発反対運動を展開するのではなく、希少種の保全と人間行為を両立させることができるのかを、客観的な立場から検討することを方針としています！

設立年：昭和57年  
構成員：個人 3名、団体 27団体  
URL：http://www.wa.commufa.jp/jfc/  
住所：〒488-0084 愛知県尾張旭市旭ヶ丘町山の手470  
E-mail：jfc-office@tg.commufa.jp  
TEL：0561-54-8066 / FAX：0561-54-8096



## 農地生態系における保全対象 アベサンショウウオ

有尾目サンショウウオ科  
学名：*Hynobius abei*  
日本固有種

文化財保護法	-	
種の保存法	国内希少野生動植物種	
レッドデータ カテゴリ	環境省	絶滅危惧 I A 類 (CR)
	愛知	-
	岐阜	-
	三重	-
	石川	絶滅危惧 I 類
福井	県域絶滅危惧 I 類	
その他条例		



写真提供：長谷川 巖

### 中部地域での分布



※福井県は、分布非公開

### 種の特徴

ごく限られた一部に分布する。平地や丘陵地の雑木林内に生息し、休耕田の水路や湿地化した放棄田に産卵する。

(写真) 上：メス 下：オス

### 問題・課題

- ・ 現存個体数は極めてわずかと考えられる。
- ・ 低地では道路建設、宅地や農地の開発、ゴミの不法投棄、山地ではスキー場やゴルフ場の建設による生息環境の悪化、とくに低地二次林でその程度は高い。
- ・ ペットマニアによる不法な採集が懸念される。
- ・ アメリカザリガニによる幼生の捕食が懸念される。

### 主な保全活動

- ・ 生息地保全（産卵から変態までの水域の確保、保護増殖事業）
- ・ 地元住民を中心としたボランティアや自然保護管理員による密猟防止のパトロールや登山者へのよびかけ
- ・ 外来生物（アメリカザリガニ）の駆除



## 観察・調査研究

## 生息地保全

## 普及啓発

## 取組内容

- ◎アベサンショウウオの産卵状況や幼生調査を実施しています。
- ◎産卵場所の整備・造成を行いました。
- ◎見回り(不審者、密猟者がいないか)を実施しています。
- ◎外来種の駆除を行っています。



## 工夫点

#### 専門的な知識をもって調査に取り組む

調査には、専門家からの指導を受けた希少野生生物保全指導員が取り組んでいます。地元の方々が講習を受け、指導員として参加しています。

#### 希少種に関する情報の取り扱いについて

アベサンショウウオの生息地、産卵地は公表していません。保全活動はグループで実施しており、生息地等の情報はグループ内に留めるようにしています。また、視察等の見学場所を決めており、必ず会員と共に見学するルールを定めています。

#### 農家と共に

アベサンショウウオの主な産卵場所が、谷戸の水田であることから、保全活動には地元農家の協力が欠かせません。そのため、希少野生生物保全員制度などを活用し、農家の方々に理解を得ながら活動を実施しています。

#### 他団体との連携

地元農家を中心として地域自治振興会、区長会、土地改良区や農協、企業、小中学校、活動団体、専門家等様々な主体によって組織され、それぞれと協力して活動を行っています。



写真提供：  
水辺と生き物を守る農家と市民の会

## 活動成果

- ☆アベサンショウウオの産卵場所は増えたように感じます。
- ☆他の市など、他地域からの視察等が増えており、活動が広まっているように感じています。

## 団体紹介

福井県越前市西部の白山・坂口地区には、絶滅危惧種であるアベサンショウウオをはじめ、メダカやゲンゴロウ、ハッチョウトンボなどの多くの希少な野生生物が生息しています。また今年、越前市西部地域にくちばしの折れたコウノトリ「コウちゃん」が飛来し40周年を迎えます。わたしたちは、これらの希少種を保全し、人間生活との共生を図ることで、自然・農業そして文化等の相互作用によって、里地里山の活性化を図るために、活動しています。

設立年：平成18年  
 構成員：個人83名 3団体  
 住所：〒915-1204 福井県越前市都辺町36-84  
 しらやまいこい館内  
 URL：http://www.abechan.org/  
 E-mail：mizubenokai\_ikoikan@yahoo.co.jp  
 TEL：0778-29-2811

## VOICE

「コウノトリ再び福井の空へ」をスローガンに、多くの希少野生生物が生息する、自然豊かな里地里山づくりを目指して活動しています！



## 農地生態系における保全対象 カスミサンショウウオ

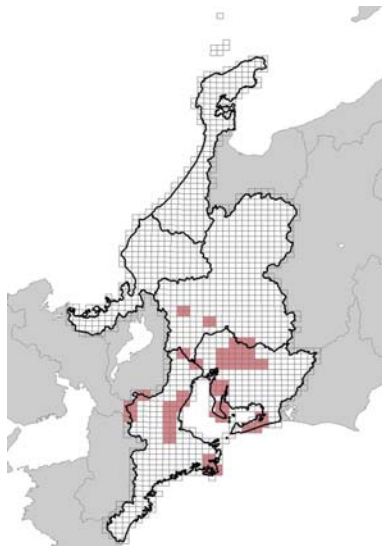
有尾目サンショウウオ科  
学名 : *Hynobius nebulosus*  
日本固有種

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	愛知	絶滅危惧ⅠB類 (EN)
	岐阜	絶滅危惧Ⅰ類 (I)
	三重	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	石川	-
福井	-	
その他条例	-	



写真提供：高木 雅紀

### 中部地域での分布



### 種の特徴

止水性のサンショウウオで丘陵や平野部を中心に水田地帯にも生息する。昆虫類、クモ、甲殻類、ミズなどを食べる。幼生は昆虫類、甲殻類、環形動物などを食べ、共食いもする。水域と陸域を利用し、生態遷移を特徴づけることから、典型種に該当する。

### 問題・課題

- ・ 開発による生息地の破壊、水質汚染、減反政策による乾田の増加による繁殖地が減少している。
- ・ アメリカザリガニ、魚類などによる捕食などにより、生息数が減少している。

### 主な保全活動

- ・ 生息域外保全（産卵から変態までの水域の確保）
- ・ 外来生物（アメリカザリガニ）の駆除
- ・ 地元住民を中心としたボランティアや自然保護管理員による密猟防止のパトロールや登山者へのよびかけ

## 観察・調査研究

## 生息地保全

## 普及啓発

## 取組内容

- ◎岐阜県内で2カ所しか生息地が確認されていないカスミサンショウウオの生息調査を行っています。
- ◎平成19年～平成22年には、地域住民、行政をはじめ、様々な研究機関や研究者などと連携し、卵や幼生の保護と人工飼育、放流を実施しました。
- ◎地域住民や行政と協力し、生息場所の整備、清掃活動などを行っています。
- ◎様々な研究機関や研究者の支援をいただきながら、遺伝子解析などの研究も行っていきます。

## 《活動地域》

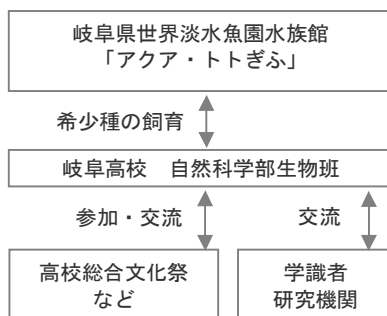
岐阜市、揖斐川町



## 工夫点

## 他団体との連携

地域住民、行政をはじめ、様々な研究機関や研究者などと連携し、カスミサンショウウオの保護と研究を実施しています。



生息調査の様子



清掃活動の様子

写真提供：岐阜県立岐阜高等学校  
自然科学部生物班

## 活動成果

- ☆放流個体は、平成22年までの4年間で3800匹を超えました。
- ☆平成22年は、平成19年に放流した個体が成熟し、産卵場に戻ってきました。個体は増加しているように感じます。

## 団体紹介

岐阜県内に生息する身近な生物を主な研究対象として、調査、研究を行っています。岐阜県内で2カ所しか生息地が確認されていないカスミサンショウウオの保護活動として、人工飼育した個体の放流や生息地の整備、また、遺伝的多様性の解析を中心に活動を展開しています。

## VOICE

岐阜県内で2カ所しか生息地が確認されていないカスミサンショウウオの生息調査、遺伝子解析をはじめ、卵や幼生の保護と人工飼育、放流を行っています！

設立年：昭和40年  
 構成員：個人 10名  
 住所：〒500-8889 岐阜県岐阜市大縄場3-1  
 E-mail：c27301@gifu-net.ed.jp(代)  
 TEL：058-251-1234(代) / FAX：0 058-251-8151(代)



植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



昆虫類

農地生態系における保全対象

# アブラボテ

コイ目コイ科

学名：*Tanakia limbata*

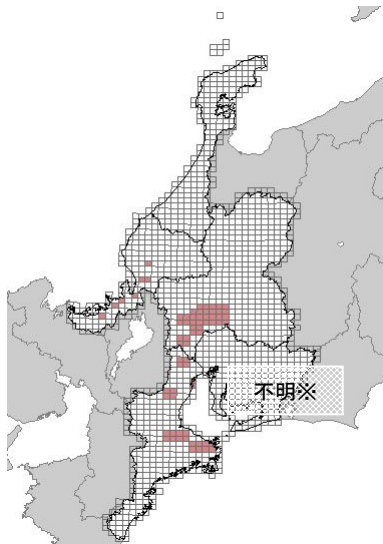
日本固有種

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	準絶滅危惧 (NT)
	愛知	情報不足 (DD)
	岐阜	準絶滅危惧 (準)
	三重	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	石川	-
福井	県域絶滅危惧Ⅱ類	
その他条例	-	



写真提供：岐阜県世界淡水魚園水族館

## 中部地域での分布



※愛知県は情報不足のため、分布は不明

## 種の特徴

湧水を水源とする平野部の細流に生息する。その他の水域では本流から引かれた灌漑水路などの岸辺を好む。池や湖などの静水域には普通生息しない。

## 問題・課題

- ・ 濃尾平野に生息すると言われており、岐阜県ではかなりの生息が確認されているが、愛知県では採捕確認された情報が得られていない。
- ・ 水路のコンクリート化や汚濁により母貝の減少とともに激減している。

## 主な保全活動

- ・ 生息地保全（産卵母貝の二枚貝が生息できる環境の保全）
- ・ 魚食性外来生物の駆除
- ・ 地元住民を中心としたボランティア団体による、自然観察会などの啓発活動



## 観察・調査研究

## 生息地保全

## 普及啓発

## 取組内容

- ◎生態学的な調査に基づく**保全計画の策定**と、**地域の合意形成**を図りながら、**町づくりへとつなげていく活動**を実施しています。
- ◎ため池の**池干し**を実施し、**外来種の駆除**や**希少種の調査**、**保全**を行っています。
- ◎魚類学会ガイドラインに基づいた、**復元放流**を実施しています。
- ◎**観察会**、**講演会**の開催、**講師派遣**を行い、**現地活動**には、**地域の子どもたちにも参加**を呼びかけ、**広く普及啓発**に努めています。

## 工夫点

他団体との連携

自治体、農業団体、地元企業と連携した活動となるよう心掛けています。

地域主体の運営を目指して

私達は、モニタリングや管理の提案や枠組みなど、専門性を持ったアドバイザーとして活動し、管理については、地域主体で実施する持続的な運営を目指しています。

他団体や地域との良好な関係づくり

野外に自身の団体が管理する特定の場所をもたず、あくまでも専門性を持った「風の人」として地域に提案し、一緒に汗を流すことで信頼を得ていると感じます。また、団体の発展ではなく、生物多様性保全を目的としていることが、伝わるよう注意しています。

地域コミュニケーションの場づくり

活動に併せて、地元の方々による炊き出しなどを行ってもらうことで、保全と外来種の駆除活動が、地域のコミュニケーションの場としても活用されています。

## 《活動地域》

東海地方全域



## 他団体との取り組み

- ・生きもの観察
- ・在来種放流会
- ・希少種調査活動
- ・ピオトープづくり
- ・池干し活動
- ・希少種増殖実験
- ・希少種遺伝子解析実験
- ・講師派遣

連携団体：

亀山市、鈴鹿川うお座、亀山の自然に親しむ会、菰野町みどり郷の会、下多度へら倶楽部、南濃町下池西部土地改良区、菰野町、田光区、朝上小学校、田光資源と環境を守る会、南濃町下池西部土地改良区、ぼてじゃこトラスト、琵琶湖博物館、四日市市環境学習センターなど

## 活動成果

- ☆希少在来種の生息地および、生息環境や個体数が各地で回復傾向にあると感じています。
- ☆保全の方策が明らかになるとともに、地域コミュニティの交流機会として、注目されるようになりました。

## 団体紹介

メンバーは学生や若い研究者が中心です。地域住民による生物多様性保全を目標として提案・活動を行いながら、メンバーそれぞれが専門性を磨き、地域コーディネーターとして成長していくことを目指しています。持続可能性をキーワードに、身近な自然を軸としたまちづくりへの提案も行っています。

設立年：平成16年  
 構成員：個人 23名  
 住所：〒510-1231 三重県三重郡菰野町神森 1029  
 淡水魚研究センター内  
 URL：http://toukaitanago.web.fc2.com/about/tokai.html  
 E-mail：kazetoge@gmail.com  
 TEL：090-3726-3514 / FAX 059-393-5795

## VOICE

生態学的な視点から管理方法を明らかにすると同時に、地域での保全の枠組みをどうつくっていくか、社会科学的な視点からの調査を行っています！



## 農地生態系における保全対象 カワバタモロコ

コイ目コイ科  
学名：*Hemigrammocypripis rasborella*  
日本固有種

文化財保護法	-	
種の保存法		
レッドデータ カテゴリー	環境省	絶滅危惧 I B 類 (EN)
	愛知	絶滅危惧 II 類 (VU)
	岐阜	絶滅危惧 I 類 (I)
	三重	絶滅危惧 I B 類 (EN)
	石川	-
	福井	-
その他条例	三重県希少野生生物動物種保護条例指定	



写真提供：岐阜県世界淡水魚園水族館

### 中部地域での分布



※岐阜県と三重県は、分布非公開

### 種の特徴

低地、丘陵地の浅い池沼、農業用水池、小川などに生息する雑食性の淡水魚。水草類、冠水した湿性植物やその根に卵を付着させる。卵径 1.0mm で日本のコイ科中もっとも小さい。

### 問題・課題

- ・ コンクリート三面張り、耕地整理、幹線水路など河川整備によるクリークの統合、ため池の放置と埋め立て、農地の宅地化、水の富栄養化などにより生息域が減少している。
- ・ 河川や水路の改修と同時に、水田などの一時的湛水域や増水時の冠水域とのつながりがなくなったため、梅雨期の繁殖への影響が懸念される。
- ・ 化学肥料、農薬などの流入による、仔・稚魚の餌となる微生物相への影響が懸念される。
- ・ ブルーギルなどの、魚食性外来魚による捕食が懸念される。

### 主な保全活動

- ・ 生息地保全
- ・ 魚食性外来生物の駆除
- ・ 地元住民を中心としたボランティア団体による、自然観察会などの啓発活動

## 観察・調査研究

## 生息地保全

## 普及啓発

## 《活動地域》

輪之内本戸の地域内の  
小水路、たいしょう池



## 取組内容

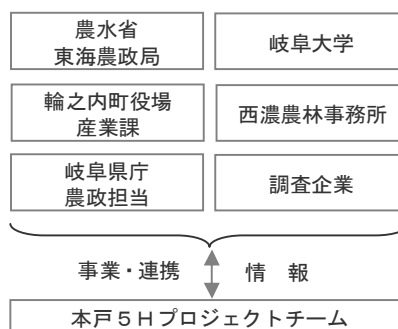
- ◎水路への植生帯、魚道スロープ、魚道付き堰坂（水深の確保）などの整備や維持・管理を行っています。
- ◎ほ場整備事業により創設した「たいしょう池」において、カワバタモロコなどの希少種の育成、繁殖場として位置づけ、一般者が観察しやすいように環境整備を行いました。
- ◎カワバタモロコの生息調査を、毎月1~2回、東海農政局指導のもと、岐阜大学の協力を得て実施しています。
- ◎保全池と保全水路内の監視活動、ごみ上げ等は日常的に実施しています。
- ◎隣集落と、地域の生物多様性保全の取り組みに向けた活動啓蒙・誘導についての合同会議や、地域住民参加のワークショップを実施しています。（東海農政局の主導開催）

## 工夫点

## 他団体との連携

平成16年度土地改良事業をきっかけに、生き物調査を実施したところ、カワバタモロコの生息が確認され、その後、国と大学研究期間の協力を得て、農地・水・環境保全向上対策モデル事業に取り組んでいます。

また、各自治体や団体と事業を通じて関係構築し、隣集落と、生物多様性に関するワークショップの実施や合同会議、情報交換等を行っています。



## 活動成果

- ☆カワバタモロコの個体数が増加しています。
- ☆行政機関への働きかけにより、平成21年12月輪之内町で、カワバタモロコの捕獲禁止を含む保護条例が議会で制定されました。
- ☆輪之内町全体で保護活動に取り組み、カワバタモロコが輪之内町の魚になっています。

## 団体紹介

輪之内町本戸が、岐阜県西濃農林事務所より農地・水・環境保全向上対策モデル事業の「指定地域」に選定されたのを機に設立され、カワバタモロコの生息環境保全のため、保全池と保全水路内の見回り、ごみ上げ、監視等を実施しています。

設立年：平成18年  
 構成員：個人31名 8団体  
 住所：〒503-0232 岐阜県安八郡輪之内町本戸212  
 輪之内本戸土地改良組合  
 石川県環境部自然保護課  
 E-mail：hiroshi@wine.ocn.ne.jp  
 TEL：0584-69-2721 / FAX：0584-69-2721

## VOICE

本戸5Hプロジェクトの5Hとは、Hondo(本戸地区)が、Heart(心)とHealth(健康)のHarmony(調和)がとれて、Happy(幸せ)になることを願ってつけられました。



## 農地生態系における保全対象 ウシモツゴ

コイ目コイ科  
学名 : *Pseudorasbora pumila*  
日本固有種

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリ	環境省	絶滅危惧 I A 類 (CR)
	愛知	絶滅危惧 I A 類 (CR)
	岐阜	絶滅危惧 I 類 (I)
	三重	絶滅危惧 I A 類 (CR)
	石川	-
	福井	-
その他条例	愛知県、三重県、岐阜県 ／希少野生生物動物保護 条例指定	



写真提供：岐阜県世界淡水魚園水族館

### 中部地域での分布



※岐阜県、三重県は、分布非公開

### 種の特徴

農業用水路、池沼、小川の止水域や半自然水路の緩やかな流水に生息する。オスが石や木の枝などの産卵基質を中心に縄張りをつくり、メスを誘い込んで産卵させる。

### 問題・課題

- ・ 工業団地の造成や圃場整備事業によるため池の埋め立て、老朽ため池の大規模な改修工事に伴う、干し上げ、工事後のコンクリートの灰汁の溶出など、生息地である池沼の荒廃、消失が懸念される。
- ・ オオクチバス、ブルーギルなど捕食者の侵入が懸念される。
- ・ モツゴがウシモツゴの減少に影響を与えている可能性もある。

### 主な保全活動

- ・ 生息地保全
- ・ 魚食性外来生物の駆除
- ・ 地元住民を中心としたボランティアや自然保護管理員による密猟防止のパトロールやよびかけ

## 観察・調査研究

## 普及啓発

## 取組内容

◎犬山市の環境行政（現在は公園緑地課）、博物館や大学と連携し、ウシモツゴの保護・増殖を目的とした**個体、個体群、生息環境の調査・研究**を行っています。

◎ため池のウシモツゴ個体数は把握していませんが、市内の学校、犬山モンキーセンターの池などに2~300**個体を管理**しています。現在では犬山市内に万単位の個体が生息し、1000個体単位で放流を実施しています。

◎調査結果や活動報告を**ホームページ**へ掲載しています。また市と協働で**冊子、パンフレット**の作成、犬山里山学センターでの**展示**を行なっています。



《活動地域》

犬山市



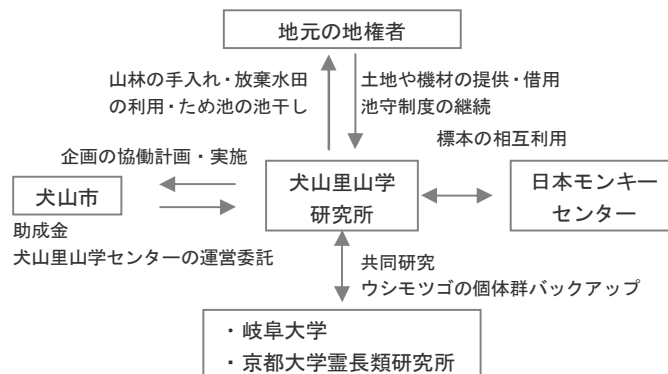
里山学研究所

里山学研究所 展示の様子

## 工夫点

## 他団体との連携

県行政、NPO 法人、池守（農業従事者）・地区役員、研究機関、小中学校、市民のボランティア組織など、多様な主体が固有の機能を発揮する社会的システム「新たな池守パブリック・ワークス」を提唱しています。



## 団体紹介

犬山市周辺において、生物多様性や里山について一般市民が学び、里山の保全と利活用を図ること目的に、「犬山里山学センター」を拠点に、行政や研究機関、農業従事者、NPO 等多様な主体が協働し活動を展開しています。

設立年 : 平成 17 年  
 構成員 : 個人 70 名 3 団体  
 住所 : 〒464-0061 犬山市大字塔野地大睦 364  
 犬山里山学センター 1 階  
 URL : <http://www.inuyama.net/~satoyama/>  
 E-mail : [c27301@gifu-net.ed.jp](mailto:c27301@gifu-net.ed.jp) (代)  
 TEL : 0568-65-2121

## VOICE

地元から里山の手入れを行って欲しいという要望があり、生物多様性、里山の風景保全、学びの場の創出という目的のもと活動を行っています。今後は、地域主導の活動を活発化させていきたいと思っています！

G06

岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ  
ウシモツゴの調査・増殖

岐阜県

観察・調査研究

生息地保全

《活動地域》

岐阜県関市、美濃市における  
農業用ため池

取組内容

岐阜県河川環境研究所、関市・美濃市、市民団体岐阜・美濃生態系研究会、岐阜県博物館、岐阜県世界淡水魚園水族館で組織された「ウシモツゴを守る会」の活動として、以下の活動を行っています。

- ◎放流池の生息調査、放流予定地の選定の実施を行っています。
- ◎増殖させ、毎年1か所以上で野生復帰を行っています。
- ◎外来魚駆除を行っています。
- ◎毎年4月に親魚交換会を開催しています。



工夫点

④ 遺伝的多様性に配慮した増殖

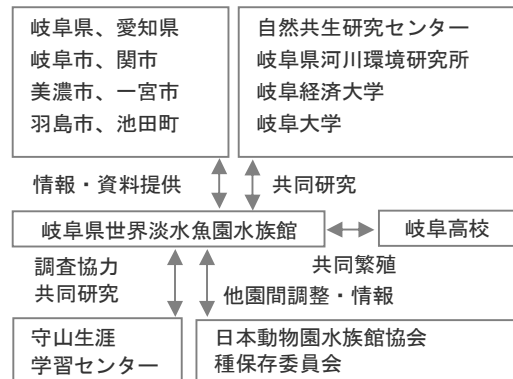
遺伝的多様性に配慮し、近交劣化を避けるように増殖させ、毎年1か所以上で野生復帰を行っています。

④ 他団体との連携

複数組織による取り組みにおいては、各機関の組織としての限界を理解し、無理な強要はせず、成果は皆で共有する意識を大切にしています。

④ 希少種に関する情報の取り扱いについて

生息場所や数情報は、積極的に公表していません。また、公表する際は情報を精査しています。



団体紹介

岐阜県の自然環境、河川環境を楽しく学び、考える環境学習実践の場として、また、地域交流の拠点となることを目的として設立されました。岐阜県河川環境研究所、関市・美濃市、市民団体等で組織された「ウシモツゴを守る会」の活動として、親魚交換会開催、放流池生息調査、放流予定地選定、放流、外来魚駆除を行っています。

設立年 : 平成 16 年  
 URL : <http://www.aquatotto.com>  
 住所 : 〒501-6021 岐阜県各務原市川島笠田町 1453  
 河川環境楽園内  
 E-mail : HP の問い合わせフォームより連絡可能  
 TEL : 0586-89-8200(代) / FAX : 0586-89-8201(代)

VOICE

岐阜県の自然環境、河川環境を楽しく学び、考える環境学習実践の場として、また、地域交流の拠点となることを目的として活動しています！



植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



昆虫類

農地生態系における保全対象

# ギフチョウ

チョウ目アゲハチョウ科

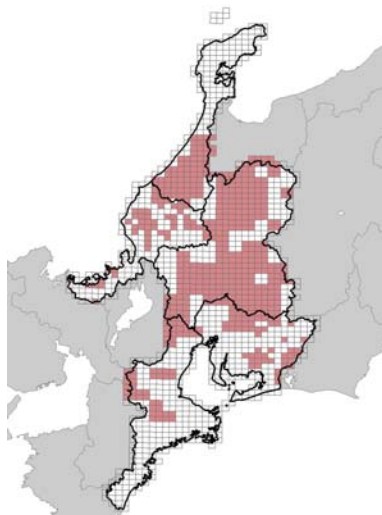
学名 : *Luehdorfia japonica*

日本固有種

文化財保護法	-	
種の保存法	-	
レッドデータ カテゴリー	環境省	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	愛知	準絶滅危惧 (NT)
	岐阜	準絶滅危惧
	三重	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	石川	準絶滅危惧
	福井	県域絶滅危惧Ⅱ類
その他条例	-	



## 中部地域での分布



## 種の特徴

クヌギ・コナラを中心とした雑木林に生息。スズカカンアオイ、ヒメカンアオイ、ナタデラカンアオイ、ウスバサイシンを食草とする。

## 問題・課題

- ・ 生息地は里山とその周辺の落葉広葉樹林であるため、宅地開発やゴルフ場の造成、道路の新設や拡幅工事、ダム建設など、開発の影響を受けやすい。
- ・ 植林による生息地の破壊や、農業形態の変化にともない里山が利用されなくなり、里山林の管理が放棄され、落葉広葉樹林から常緑広葉樹林への遷移が進み、本種の生息に適さない環境になった。
- ・ 減少しつつある産地に多数の採集者が集中していることも、本種の減少の原因となってきたと考えられる。

## 主な保全活動

- ・ 生息地保全及び、地元住民を中心としたボランティアや自然保護管理員による密猟防止のパトロールや登山者へのよびかけ。

M01

伊賀ふるさとギフチョウネットワーク  
ギフチョウの生息地保全

三重県

観察・調査研究

生息地保全

普及啓発

取組内容

- ◎成虫の飛翔調査、ヒメカンアオイの分布・産卵調査を実施しています。
- ◎調査活動で産卵が認められなくなった地区においては、経験者の指導のもと人工飼育を行い、放蝶、モニタリングを実施しています。
- ◎ギフチョウの生息地保全を目的として、食草であるヒメカンアオイの移植作業、雑木林の林床の下草刈り(11月～3月)、蜜源植物としてのレンゲ植栽を実施しています。
- ◎天然記念物指定地の巡回監視と、生息地で採集者に出会った際など現状を説明し、採集自粛の要請、及び啓発看板の設置を行っています。
- ◎定例観察会、シンポジウムを実施しています。



《活動地域》  
伊賀地方



子ども達との活動の様子

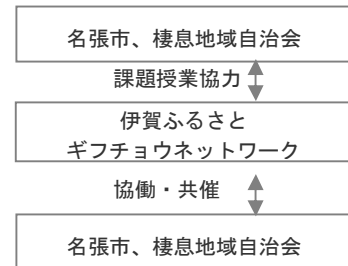
写真提供：伊賀ふるさとギフチョウネットワーク

工夫点

地域や子どもたちと連携

棲息地域の小学校での課外授業や、自治会と共催で音楽会イベントと合わせて観察会を実施しました。また、放蝶も一緒に行うなど、地域の子もたちと連携して、保全活動を行っています。

交流・連携図



活動成果

☆クラブ員が飼育した蛹約50匹を、ガールスカウトの子どもたちと一緒に放しました。その後、子ども達の協力を得て綿密な産卵調査を実施したところ、予想を越える産卵を確認することができました。

団体紹介

三重県のギフチョウ産地が伊賀地方だけになり、その伊賀においても多くの生息地で絶滅しているため、ギフチョウが飛び交う里山環境の保全を目標として設立されました。生息地の草刈り、普及啓発活動、観察会の実施、生息調査、天然記念物指定地の巡回監視、絶滅危惧される地域での採集自粛勧告活動等を行っています。

VOICE

小学校やガールスカウトに呼びかけ、観察会を実施したところ、子どもたちはギフチョウの卵の美しさに感動し、飼育に取り組むこととなりました。その後、育てたギフチョウの羽化を観察し、そのときの感動文を寄せてくれました！

設立年：平成11年  
 構成員：個人 48名  
 URL：http://www.geocities.jp/luehdorfia2004/  
 住所：〒518-0625 三重県名張市桔梗が丘5番町1街区31  
 TEL：0595-65-1014/ FAX：0595-65-1014





植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



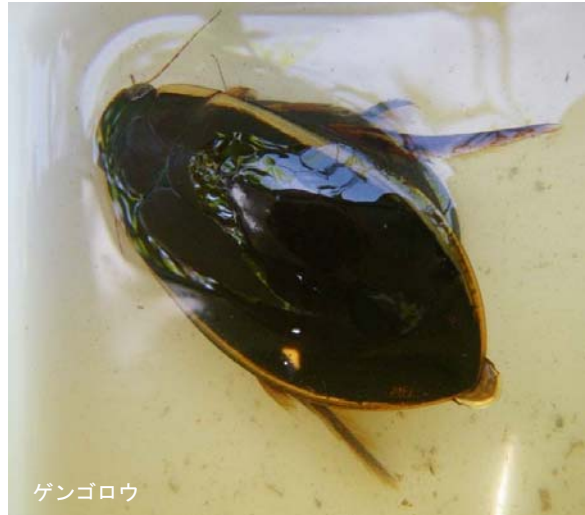
昆虫類

農地生態系における保全対象

## 希少水生昆虫（ゲンゴロウ類）

### 種の特徴

ゲンゴロウ類は、幼虫から成虫まで空気呼吸をする、原則として肉食の昆虫である。生息環境は種によって異なるが、水田や池などの止水域や、溪流、さらには海岸の潮間帯上部に位置するタイドプールや地下水などにも生息する。完全に水中生活に見えても、蛹の時代を陸で過ごすなど、一時的に陸地を利用する。



ゲンゴロウ

写真提供：八千代エンジニアリング

### 中部地域の希少ゲンゴロウ類

【ゲンゴロウ類】ヤシャゲンゴロウ、シャープゲンゴロウモドキ、ゲンゴロウ、マルコガタノゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、マダラシマゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、トダセスジゲンゴロウなど

### 問題・課題

- ・ 災害防止のための河川の浚渫や護岸工事、水資源確保のためのダムや河口堰の建設、干拓事業、圃場整備、用水路整備、細流工事、湧水帯の破壊、河川の澱みやワンドの破壊、ため池埋立、護岸整備、堤防等の河川横断構造物の築造、繁殖地となる水田地帯の埋立て等による、生物の生息環境や水辺生態系への影響が懸念される。
- ・ 水質汚染（ゴミ・不法投棄、化学物質、富栄養化など）による、生物の生息環境の影響が懸念される。
- ・ 外来種の捕食や、減少しつつある生息地に採集者が集中することも、種の減少の原因となっている。

### 主な保全活動

- ・ 生息地保全
- ・ 外来生物の駆除
- ・ 地元住民を中心としたボランティアや自然保護管理員による密猟防止のパトロールや登山者へのよびかけ

観察・調査研究

生息地保全

普及啓発

《活動地域》

珠洲市三崎地区  
輪島市三井地区



取組内容

【希少水生昆虫】

シャープゲンゴロウモドキ、ゲンゴロウ、マルコガタノゲンゴロウ、クロゲンゴロウなど

- ◎休耕田を利用した**ビオトープ水田**を整備しました。
- ◎里山林やビオトープ水田の**草刈**、**営農**など、管理運営を行っています。
- ◎**外来種の駆除**を行っています。
- ◎里山環境モニタリング調査として、**植生調査**、**水質調査**、**希少水生生物調査**を実施しています。
- ◎「**里山保全再生研修会**」を実施しました。

工夫点

**ビオトープ水田の整備と運営**

希少水生昆虫の保全のために整備したビオトープ水田には、県外からの営農希望者が入り、無農薬、不耕起、手植え、冬季湛水によって水生昆虫の保全を行っています。

**他の団体、地域や行政との連携**

行政、大学、市民など15もの団体が連携して1つの事業をやる例は県内で他にはありません。能登の活動に人手が足りない時、金沢の活動団体が参加するなど、良好な関係とネットワークが出来ています。

活動成果

☆モニタリング調査によって、整備したビオトープでは、希少水生昆虫をはじめ、多種の水生生物が確認され機能を果たしていることがわかりました。

石川の里山生物多様性  
保全再生事業推進協議会  
連携団体

- ・石川県
- ・金沢市
- ・珠洲市
- ・輪島市
- ・金沢大学
- ・国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニット
- ・金沢森林組合
- ・環八会
- ・いしかわり山保全活動リーダー会
- ・金沢市四十万校下赤十字奉仕団
- ・金沢ふるさと愛山会
- ・能登にトキとコウノトリを呼ぶ会
- ・NPO 法人能登半島おらっちゃんの里山里海
- ・輪島市ビオトープ研究会
- ・石川県民退職者連合

団体紹介

石川県の里山は、全国的に見ても希少な野生動植物が生育する生物多様性の豊かな環境であるとともに、その面積は県土の約60%を占め、生物多様性の保全上非常に重要な存在です。本事業では、環境省の「地域生物多様性保全活動支援事業」を活用し、里山における希少種の保全再生を目指すモデルプロジェクトを実施しています。

設立年 : 平成 20 年  
 構成員 : 団体 15 団体  
 住所 : 〒920-8580 石川県金沢市鞍月 1-1  
 石川県環境部自然保護課  
 E-mail : e170500@pref.ishikawa.lg.jp  
 TEL : 076-225-1477 / FAX : 076-225-1479

VOICE

ビオトープ水田を生態系ガイドマップ、グリーンツーリズム、環境教育の場として発展させていきたいと思っています！



農地生態系における保全対象

## 中池見湿地の希少種

福井県敦賀市

### 湿地の特徴

中池見湿地は、三つの低山に囲まれた面積約 25ha の内陸低湿地。泥炭層が厚さ 40m を超える、国際的にも珍しい湿地であり、日本の地形レッドデータブックにも保全を要する最も価値のある地域の一つとして記載されている。江戸時代初期から開墾され、一部湿田になっている。

国内屈指のトンボの生息地でありまた、福井県唯一のデンジソウの自生地である。



### 希少な生物

【植 物】イトトリモゲ、デンジソウ、オオアカウキクサ、ヒメビシ、ミズトンボなど

【鳥 類】トモエガモ、ノジコ、サンショウクイ、クマタカ、オオタカなど

【両生類】アカハライモリなど

【魚介類】ホトケドジョウ、メダカ、アブラボテなど

【昆 虫】オオコオイムシ、コガタノゲンゴロウなど

### 問題・課題

- ・ アメリカザリガニの異常繁殖が懸念される。
- ・ 枯れ草による富栄養化など、環境が変化していく湿地の永続的な維持管理について課題がある。

### 主な保全活動

- ・ 生息地保全（草刈りや水路の維持・整備）
- ・ 外来生物（アメリカザリガニ）の駆除
- ・ 地元住民を中心としたボランティア団体による自然観察会などによる啓発活動

観察・調査研究

生息地保全

普及啓発

取組内容

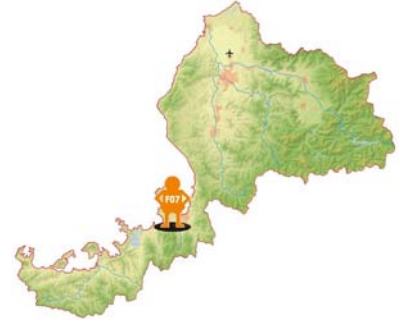
【希少植物】 デンジソウ、オオアカウキクサ、ヒメビシ、ミズトラノオ、ミズアオイ、トチカガミ、ヒツジグサ

【希少生物】 ホトケドジョウ、メダカ、アブラボテ、アカハライモリ、オオコオイムシなど

- ◎植物は複数カ所へ移植し、生育状況を観察しています。
- ◎平成 22 年にホトケドジョウが十数年ぶりに発見され、生息地の経過観察を実施しています。他の 4 種は、湿地内の生息状況を観察しながら、ビジターセンター(ウェットランドミュージアム)で飼育展示して、市民に啓発を行っています。
- ◎外来種の駆除を実施しています。

《活動地域》

敦賀市榎曲中池見湿地



工夫点

他団体との連携

「中池見ねっと」は、地元の榎曲区と中池見会、大阪ガス造成の保全エリア管理会社、NPO ウェットランド中池見から個人で参加し、連合組織として設立されました。

また、榎曲区と生物多様性保全協議会の設置と推進を行い、近畿大学から講師を招いて里山保全の学習会を実施しました。平成 22 年からは、敦賀市と事業委託・受託の関係で、連携しています。

希少種に関する情報の取り扱いについて

希少種のなかでも、個体数の少ないものについては、生息場所の特定ができないよう配慮しています。



活動成果

- ☆希少植物の生育拡大の実践活動は一定の成果を上げ、デンジソウ、オオアカウキクサなどの自生ポイントが拡大しました。
- ☆保全活動中に、ホトケドジョウの生息が確認されました。

団体紹介

中池見湿地の保全と管理に関する事業を行っています。絶滅危惧種を含む生物多様性の保全及び湿地の持続可能な利用を図り、自然と人間が共生できる豊かな社会の実現を目的として、平成 22 年からは、敦賀市の「市民による中池見の管理・運営・活用事業」を受託して、貴重種保全や外来種駆除等、中池見湿地の保安全管理にあたっています。

設立年 : 平成 20 年  
 構成員 : 個人 50 名  
 URL : <http://www6.plala.or.jp/nakaikeminet/>  
 住所 : 〒914-0005 福井県敦賀市榎曲 79 奥堀切  
 中池見人と自然のふれあいの里気付  
 E-mail : [masuda.sigeru@amber.plala.or.jp](mailto:masuda.sigeru@amber.plala.or.jp)  
 TEL : 090-8269-9801 / FAX : 0770-22-2723

VOICE

中池見の生き物をお家で飼育したり、アメリカザリガニ防除のかごを 1 年間、無料で引き上げることができる、「中池見キッズいきものサポーター制度」をつくりました。自然の尊さに気づききっかけになれば嬉しいです！